

2023
TRAINER

2-STROKE
300



Rideability



2023
OWNERS MANUAL



XTRAINER 250 2T EUROPE - XTRAINER 300 2T EUROPE XTRAINER 250 2T - XTRAINER 300 2T

ご愛顧いただきありがとうございます。楽しい時間をお過ごしください。このハンドブックには、オートバイを適切に操作および維持するために必要な情報が含まれています。

このマニュアルに示されているデータ、仕様、および画像は、BETAMOTOR S.p.A. の一部との契約を構成するものではありません。BETAMOTOR は、予告なしにいつでもそのモデルに変更および改良を加える権利を留保します。

Code 036.44.044.83.00

重要

最初の 1 ～ 2 時間で荒れた地面を走行した後に、すべての締め付けを確認することをお勧めします。次の部分に特に注意を払う必要があります。

- リアスプロケット
- フットレストが適切に固定されていることを確認してください
- フロント / リア ブレーキ レバー / キャリパー / ディスク
- プラスチックが適切に固定されていることを確認してください
- エンジンボルト
- ショックアブソーバーボルト / スイングアーム
- ホイールハブ / スポーク
- リアフレーム
- パイプ接続
- チェーンの張り

重要

車両への介入が発生した場合は、Betamotor アフターサービスにご連絡ください。

メンテナンス スケジュールで指定された操作は、認定された Betamotor ワークショップでのみ実行する必要があります。Betanet ポータルに登録する必要があります。登録を怠ると、保証が無効になります。

過酷な条件で車両を使用すると、例えば、砂地、サーキット / オフロードトラックなど、湿った、ほこりの多い、または泥だらけの地形で使用すると、駆動システム、ブレーキシステム、エアフィルターなどのコンポーネントが平均以上に摩耗する可能性があります。またはサスペンション部品。したがって、最初のサービスの期限が来る前であっても、コンポーネントの検査または交換が必要になる場合があります。

コンテンツ	
取扱説明書	6
記号	6
安全運転	7
第 1 章 一般情報	8
車両識別データ	9
ツールキット	9
各部名称	10
仕様	11
電気系統	15
電球	17
ヒューズ	17
推奨される潤滑剤と液体	17
第 2 章 操作	18
主要な部分	19
デジタルメーターの操作手順	24
使用前後のチェック	33
慣らし運転	33
給油	34
混合オイルの給油	35
エンジンの始動	35
エンジンの停止	35
第 3 章 調整	36
記号	37
ブレーキ	37
クラッチ	38
スロットルワイヤーの調整	38
アイドリングの調整	38
使用条件に合わせたキャブレターセッティング	39
排気弁制御調整	42
ハンドル調整	42
フロントフォークの調整	44
ショックアブソーバー	44
第 4 章 点検と保守	46
記号	47
エンジンオイル	47

クーラント	48
エアフィルター	51
エアフィルターのクリーニング - XTRAINER250/300 2T 欧州仕様	52
スパークプラグ	53
キャブレター	54
フロントブレーキ	56
リアブレーキ	59
クラッチコントロール	62
ステアリングの遊びの確認と調整	64
フロントホイール	65
フロントフォーク	66
リアサスペンションのレバレッジ	66
タイヤ	67
チェーン	67
ヘッドライト	69
ヘッドライトバルブの交換	69
テールライト	70
バッテリー	70
バッテリーの取り外し	70
バッテリーの取り付け	71
ヒューズ	72
車両の清掃	73
長時間の非アクティブ	74
定期車両整備	75
締付トルク概要	77
第5章 交換品/トラブルシューティング	78
シートの取り外しと取り付け	79
エアフィルターカバーパネルの取り外しと取り付け	80
完全なタンクの取り外しと取り付け	81
ヘッドランプマスクの取り外しと取り付け	82
トラブルシューティング	83

取扱説明書

- 車両には、ナンバープレート、登録書類、タックスディスク、保険が必要です。
- エンジンまたはその他の部品の改造は、車両の没収を含む厳しい制裁によって罰せられます。
- あなたと他の人の安全を守るために、常に注意して運転し、ヘルメットを着用し、ロービームを常にオンにしてください。
- スタンドを立てた状態で車両に乗らないでください。
- 密閉された場所でエンジンを始動しないでください。

警告

保証期間中に車両を改造したり改ざんしたりすると、メーカーはすべての責任を免除され、保証が無効になります。

記号



安全/注意

この記号が付いた情報を守らないと、人身事故につながる可能性があります。

車両の完全性



この記号が付いた情報を守らないと、車両に重大な損傷が生じ、保証が終了する可能性があります。



可燃性液体の危険



使用およびメンテナンスマニュアルをよくお読みください。



防護服の着用が義務付けられています

車両の使用は、特定の保護服と安全靴を着用することを条件としています。



保護手袋必須

説明されている操作を実行するには、保護手袋を着用することが必須です。



裸火または制御されていない可能性のある発火源の使用は禁止されています



喫煙禁止



携帯電話を使用しないでください



腐食性物質の危険

この記号の付いた液体は非常に腐食性があります：取り扱いには注意してください



中毒の危険

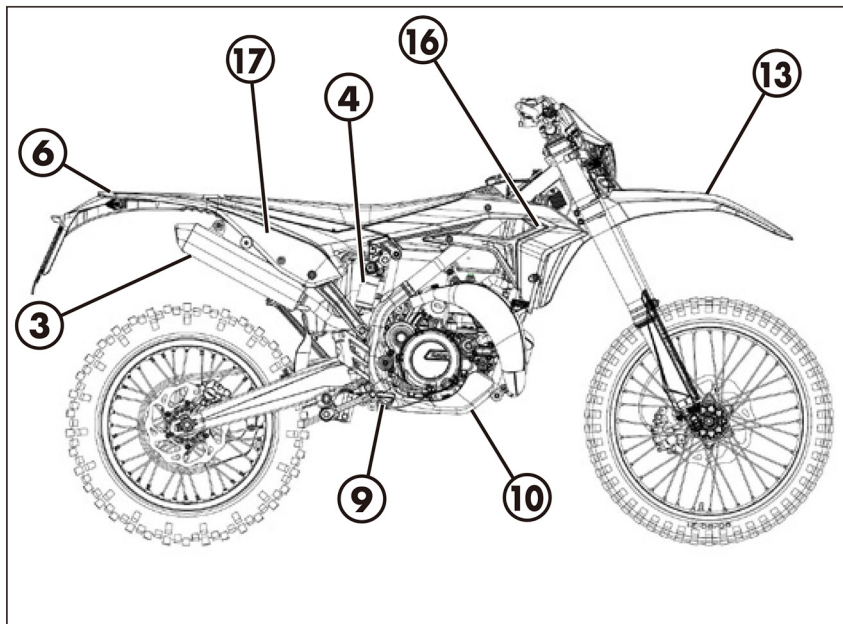
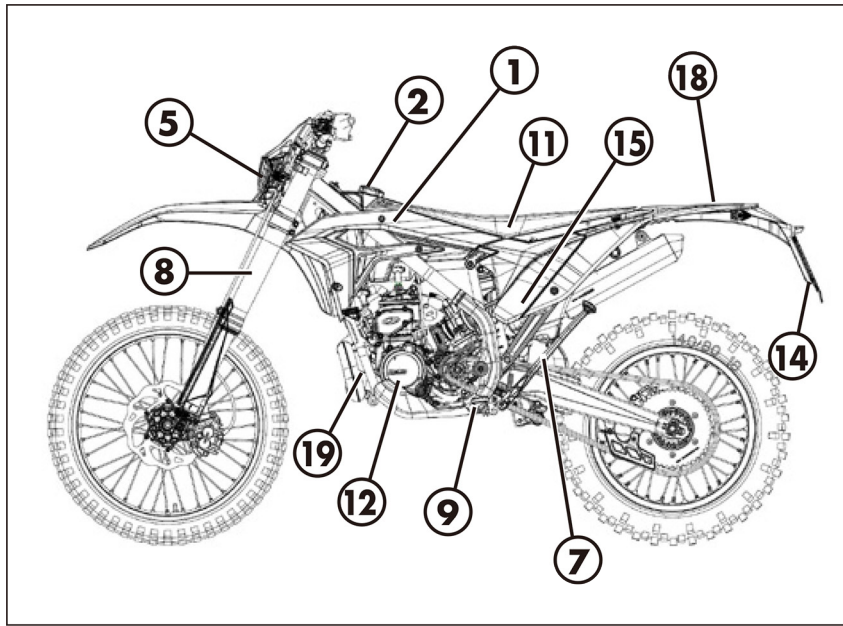
安全運転

- 高速道路法を遵守してください。
- 承認された個人用保護具を常に着用してください。
- 常にロービームをオンにして走行してください。
- クラッシュ ヘルメットのバイザーは常に清潔に保ってください。
- 端がぶら下がっている衣類の着用は避けてください。
- 乗車中はポケットに鋭利なものや壊れやすいものを入れないでください。
- バックミラーを適切に調整します。
- 常に座った姿勢で乗車し、両手をハンドルバーに、両足をフットレストに乗せます。
- 他の車両と並走しないでください。
- けん引しないでください。他の車両にけん引されないようにしてください。
- 他の車両とは常に安全な距離を保ってください。
- 車両がスタンドにあるときは発進しないでください。
- 横揺れやウイリーは避けてください。あなた自身や他の人々の安全だけでなく、あなたの車にも非常に危険です。
- 砂利や砂のない乾いた道路では、常に両方のブレーキをかけてください。1つのブレーキを使用すると危険であり、制御不能な横滑りを引き起こす可能性があります。
- 制動距離を短くするには、常に両方のブレーキをかけます。
- 濡れた路面やオフロード走行では、注意して適度な速度で運転してください。ブレーキをかけるときは特に注意してください。

第1章 一般情報

コンテンツ

車両識別データ	9
フレームナンバー	9
エンジンナンバー	9
ツールキット	9
各部名称	10
主要な部分：	10
仕様	11
重量	11
寸法	11
タイヤ	11
ホイール	11
容量	11
フロントサスペンション	12
リアサスペンション	12
フロントブレーキ	12
リアブレーキ	12
エンジン	13
電気系統	15
電気回路図	15
凡例の電気回路図	16
電球	17
ヒューズ	17
推奨潤滑剤と液体	17



主要な部分：

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 - 燃料タンク | 10 - スキッドプレート | 19 - カーボンキャニスター * |
| 2 - タンクキャップ | 11 - シート | |
| 3 - サイレンサー | 12 - エンジン | * 必要な市場向け |
| 4 - リアショックアブソーバー | 13 - フロントフェンダー | |
| 5 - ヘッドライト | 14 - ナンバープレートホルダー | |
| 6 - テールライト | 15 - エアフィルターカバー | |
| 7 - サイドスタンド | 16 - シュラウド | |
| 8 - フロントフォーク | 17 - サイドパネル | |
| 9 - フットレスト | 18 - リアマッドガード | |

仕様

重量

燃料満タンおよびオプションでの走行時の重量

115kg (フロント 55kg、リア 60kg)

寸法

最大長 (プレートホルダー付き)	2270mm
最大幅	802mm
全高	1245mm
ホイールベース	1467mm
サドル高	910mm
最低地上高	320mm
フットレストの高さ	390mm

タイヤ

寸法		空気圧 [Bar]	
フロントタイヤ	リアタイヤ	フロントタイヤ	リアタイヤ
80/100-21	140/80-18	1.5 (オンロード)	1.8 (オンロード)
		1 (オフロード)	1 (オフロード)

ホイール

バージョン	寸法	
	フロント	リア
X-Trainer 250 - 300	J 1.6×21	J 1.85×18

容量

燃料タンク

8.8 リットル
(リザーブ) 1.5 リットル

クーラント

1.3 リットル

混合オイルタンク

0.65 リットル
(リザーブ) 0.18 リットル

ミッションオイル

(通常のメンテナンス作業後)

0.80 リットル

ミッションオイル

(エンジン O/H 後)

0.85 リットル

フロントサスペンション

油圧フォーク USD (シャフト Ø43 mm)

スプリング K 8

オイルの種類…………… 表「推奨される潤滑剤と液体」17 ページを参照

オイル量…………… 500ml

スプリングプリロード…………… レジスタ全開

リバウンド クリック (完全に閉じた状態から) …… 12

ホイールトラベル…………… 270mm

リアサスペンション

複合レバー付きシングルショックアブソーバー

スプリング…………… K 5,2

静的たるみ荷重 (44 ページを参照) …… 22 mm

圧縮クリック、高速 (完全に閉じた状態から) …… 15

リバウンド クリック (完全に閉じた状態から) …… 10

ショックアブソーバートラベル …… 110mm

フロントブレーキ

Ø260 mm ディスクとデュアルピストン フローティング キャリパー

リアブレーキ

Ø240 mm ディスクとシングルピストン フローティング キャリパー

エンジン

バージョン	XTRAINER 250 2T Europa XTRAINER 250 2T	XTRAINER 300 2T Europa XTRAINER 300 2T
タイプ	液冷 2 ストロークシングルシリンダーおよび電動始動	
ボア x ストローク [mm]	66,4 x 72	73 x 69.9
変位 [cm ³]	249	292,6
圧縮比	13,5:1	11,55:1
CO ₂ [g/km] * #	56	64
燃料消費量 [l / 100km] * #	2,4	2,8

* EUROPA バージョンにのみ有効なデータ

クラス L 車両の WMTC サイクルに関連するデータ

燃料システム 電子ミキサー付きキャブレター

キャブレター

バージョン	XTRAINER 250 2T Europa	XTRAINER 250 2T	XTRAINER 300 2T Europa	XTRAINER 300 2T
メインジェット	130	155	130	145
スロージェット	38	35	38	38
スタートジェット	50	85	50	85
ニードル	N84K	NOZK	N84K	N1EK
ニードル位置 (上から)	2°	3°	1°	2°
エアスクリー回転 (全開から)	2	1 + 1/4	1 + 1/2	1 + 1/2
バルブ	7,5	7,5	7,5	7,5

液体冷却 ポンプによる強制液体循環

スパークプラグ NGK IR GR7CI-8

300 分走行毎に交換ならこれで可 → NGK BPR7ES

クラッチ オイルバス内の複数のディスク

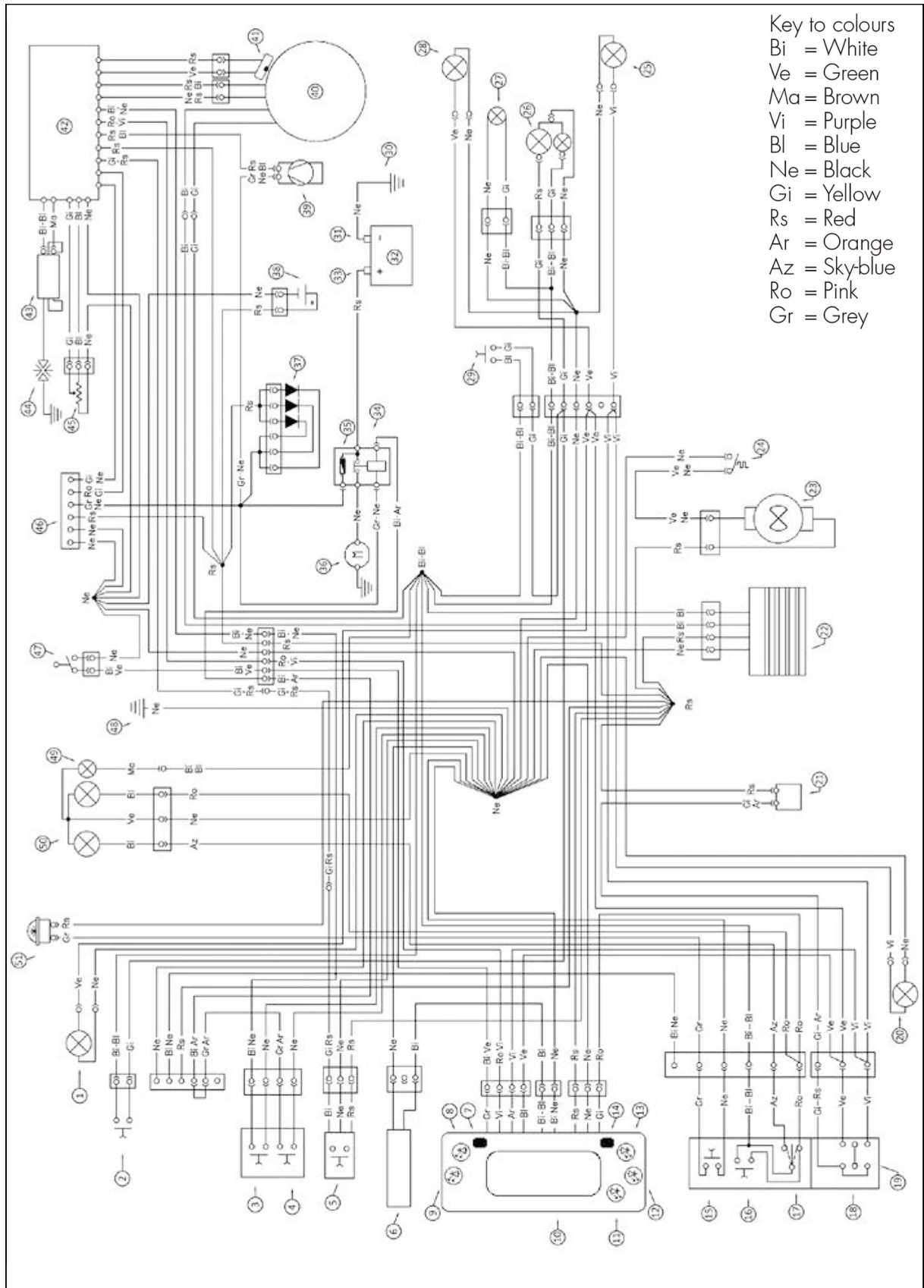
ギア比

バージョン	XTRAINER 250 2T Europa	XTRAINER 250 2T	XTRAINER 300 2T Europa	XTRAINER 300 2T
一次送信	27/72	27/72	27/72	27/72
ギア比 1a	12/31	12/31	12/31	12/31
ギア比 2a	15/28	15/28	15/28	15/28
ギア比 3a	19/28	19/28	19/28	19/28
ギア比 4a	20/24	20/24	20/24	20/24
ギア比 5a	27/27	27/27	27/27	27/27
ギア比 6a	28/24	28/24	28/24	28/24
二次送信	15/42	13/49	15/42	13/49

排出バルブ コントラストスプリング付き遠心駆動
 イグニッション DC-CDI 振動子なし、デジタル可変スパークアドバンス付き
 スターティング 電気スターター（キックスターターはオプション）

電気系統

電気回路図



凡例 電気回路図

- 1) 右フロントターンインジケータ 12V 6W
- 2) フロントブレーキライトスイッチ
- 3) エンジン停止プッシュボタン
- 4) エンジン始動プッシュボタン
- 5) マップスイッチ
- 6) 車輪回転センサー
- 7) プッシュボタンの調整
- 8) オイルミックスシステム診断警告灯
- 9) 右折指示灯警告灯
- 10) ダッシュボード
- 11) ヘッドライト テルテール ランプ
- 12) 左折指示灯警告灯
- 13) オイルリザーブ警告灯
- 14) プッシュボタンの設定
- 15) ホーンボタン
- 16) フラッシュトウパスボタン
- 17) ヘッドライトセレクター
- 18) ターンシグナルランプスイッチ
- 19) 左手コントロールグループ
- 20) 左フロントターンインジケータ 12V 6W
- 21) ユニットターンシグナルランプ
- 22) ボルテージレギュレーター
- 23) 扇風機
- 24) サーモスイッチ
- 25) 左リアターンインジケータ (12V 6W バルブ)
- 26) LED テールライト
- 27) ナンバープレートライト
- 28) 右リアターンインジケータ (12V 6W バルブ)
- 29) リアストップスイッチ
- 30) フレームアース線
- 31) バッテリーマイナス端子
- 32) 12V 4AH バッテリー
- 33) バッテリープラス端子
- 34) スターターリレー
- 35) 10A ヒューズ
- 36) スターターモーター
- 37) ダイオードグループ
- 38) コンデンサ 4700 μ F
- 39) オイルポンプ
- 40) 固定子 / 発電機
- 41) ピックアップセンサー
- 42) 電子制御ユニット
- 43) コイル
- 44) スパークプラグ
- 45) TPS
- 46) 診断コネクタ
- 47) オイルリザーブセンサー
- 48) フレームグラウンド
- 49) パーキングライト (12V 5W 電球)
- 50) フロントヘッドライト (12V-35/35W バルブ)
- 51) 12V ホーン

電球

ハイビーム／ロービーム	HS1 12V ～ 35/35W
駐車場／昼間	12V ～ W5W
ウインカー	12V - H6W
ナンバー灯	12V - W5W

ヒューズ

2つ、そのうちの1つは予備	10A
---------------	-----

推奨の潤滑剤と液体

車両の性能を最大限に引き出し、何年にもわたってトラブルのない操作を保証するために、次の製品を使用することをお勧めします。

製品の種類	仕様
燃料	ハイオク
オイルミキサータンク	LIQUI MOLY MOTORBIKE 2T SYNTH OFFROAD RACE
トランスミッションオイルとクラッチ	LIQUI MOLY MOTORBIKE 4T SYNTH 10W-50 OFFROAD RACE
ブレーキオイル	LIQUI MOLY ブレーキフルードドット 5.1
クラッチアクチュエーターオイル	LIQUI MOLY ブレーキフルードドット 5.1
フォークオイル	SAE 15W
グリースティランテリア	LIQUI MOLY シュミエフィックス
冷却液	LIQUI MOLY COOLANT READY MIX RAF12 PLUS

注意：

補充および交換については、示された表に厳密に従うことをお勧めします。

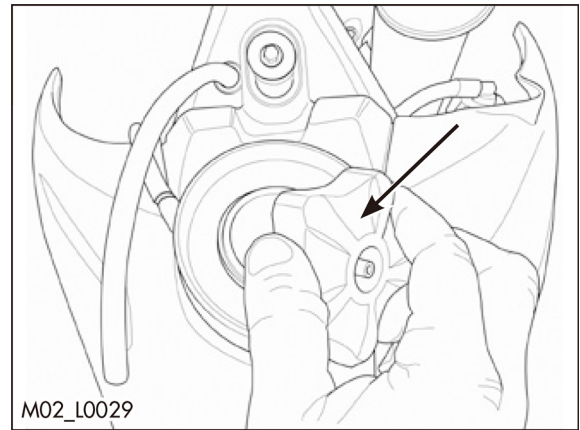
主要な部分	19
燃料タンクキャップ	19
燃料コック	19
スターター	20
混合オイルタンクキャップ	20
クラッチレバー	20
左スイッチ	21
右スイッチ	21
フロントブレーキレバーとアクセルスロットル	21
シフトレバー	22
ブレーキペダル	22
キックスタート（オプション）	22
サイドスタンド	22
キー	23
ステアリングロック	23
デジタルメーターの操作手順	24
主要な部分	24
警告灯	25
電池交換	26
アジャストボタン機能の説明	27
セレクトボタン機能の説明	28
設定モードの入り方	29
使用前後のチェック	33
慣らし運転	33
給油	34
混合オイルの給油	35
エンジンの始動	35
エンジン停止	35

主要な部分

燃料タンクキャップ

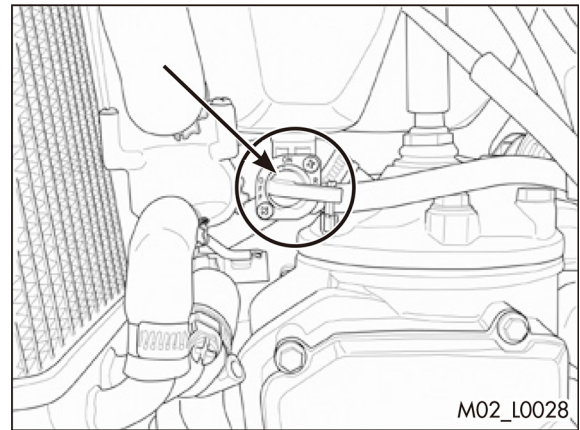
燃料タンクのキャップを開けるには、反時計回りに回します。

燃料タンクのキャップを閉めるには、タンクにセットし、時計回りに回します。



燃料コック

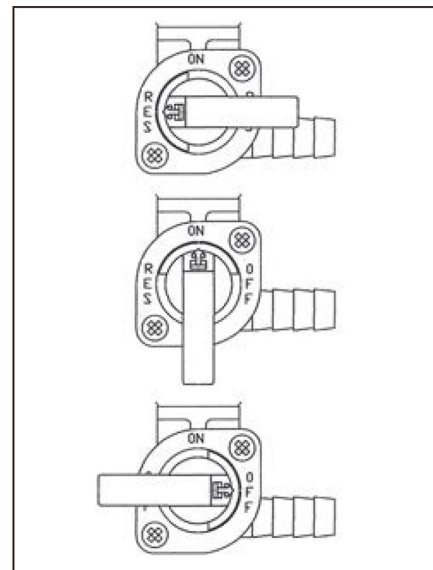
燃料コックには 3 つの位置があります。

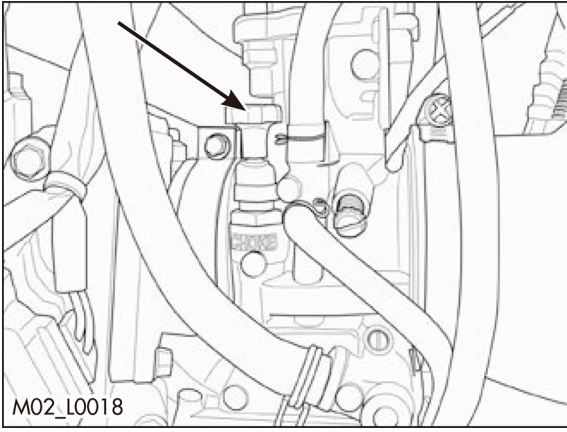


OFF: 燃料供給が閉じています。燃料がタンクからキャブレターに流れません。

ON: 燃料供給可能。燃料はタンクからキャブレターに流れます。タンクは、リザーブレベルに達するまで空になります。

RES: 燃料供給を予約します。燃料はタンクからキャブレターに流れ、タンクは完全に空になります。

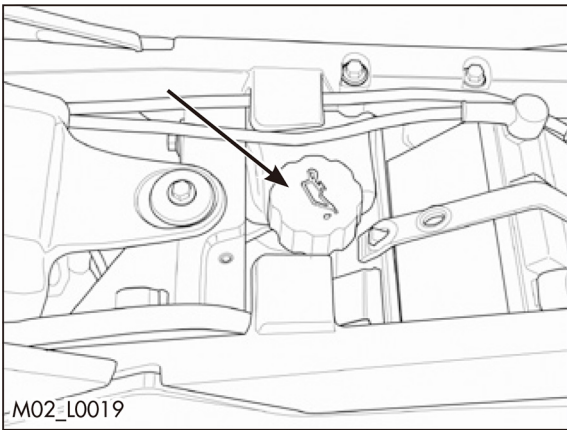




スターター

スターターレバーはキャブレターにあります。

チョークを上引くと操作できます



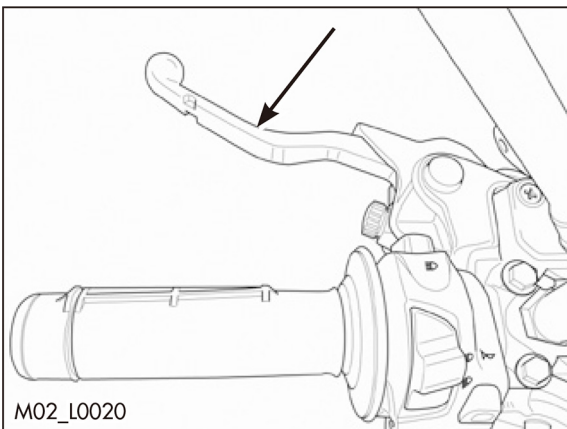
混合オイルタンクキャップ

混合オイルタンクキャップはシートの下にあります。

アクセスするには、シートを取り外します (78 ページ)。

燃料タンクのキャップを開けるには、反時計回りに回します。

燃料タンクのキャップを閉めるには、タンクにセットし、時計回りに回します。





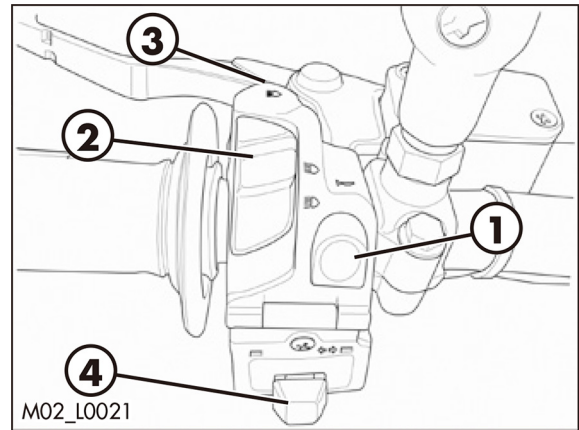
クラッチレバー

クラッチレバーはハンドルバーの左側に取り付けられています。

左スイッチ

ディップおよびサービススイッチはハンドルバーの左側にあり、次のように構成されています。

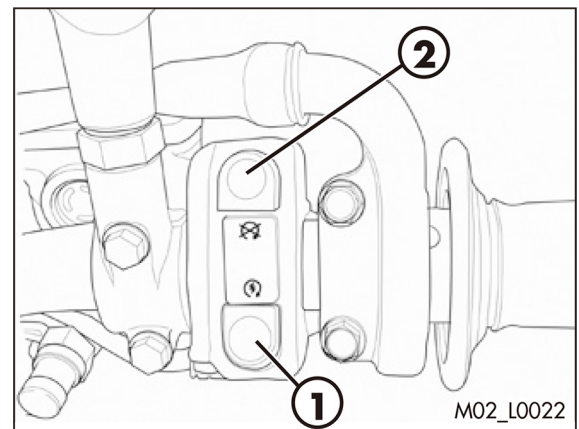
- 1 - ホーンボタン；
- 2 - ディップスイッチ：
 -  駐車灯とハイビーム。
 -  駐車灯とロービーム。
- 3 - フラッシュツープスボタン。
- 4 - ターン・シグナル・ライトスイッチ：シフトレバーを左右に動かすと、左右のインジケーターが作動します。手を離すと、レバーは中央位置に戻ります。押しとインジケーターが消灯します。



右スイッチ

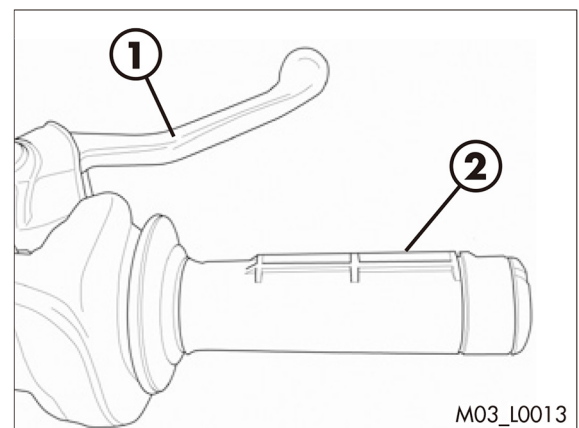
スターターボタン **1** はハンドルバーの右側にあり、電動エンジンスターターを操作します。エンジンの始動については、34 ページを参照してください。エンジンが作動している間は、ボタン **1** を押さないでください。

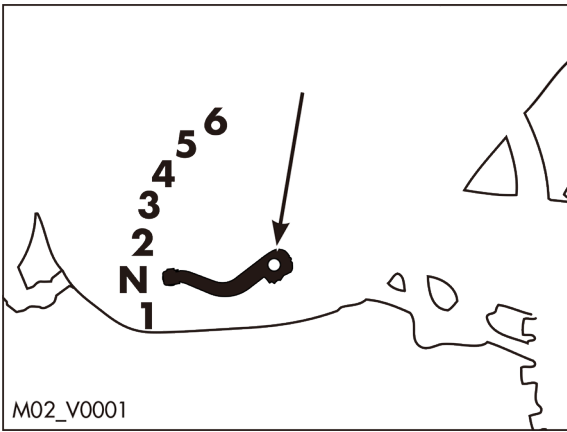
ボタン **2** はエンジンをオフにします。



フロントブレーキレバーとアクセルスロットル

フロントブレーキレバー **1** とアクセルスロットル **2** は、ハンドルバーの右側にあります。

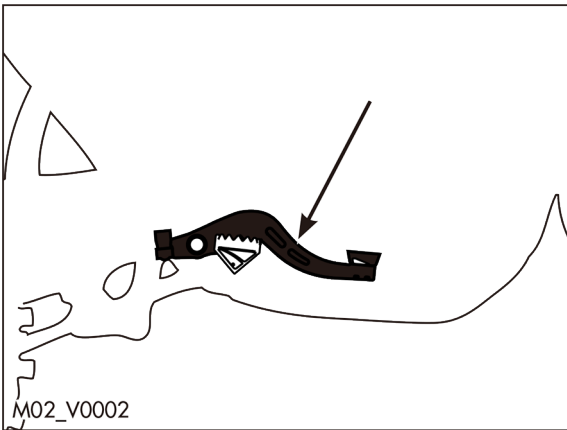




シフトレバー

シフトレバーはエンジン左側に装備しています。

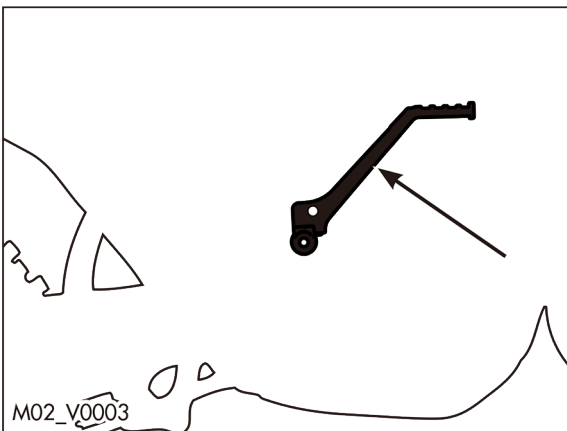
異なるギアに対応する位置が図に示されています。



ブレーキペダル

ブレーキペダルは、右側のフットレストの前にあります。

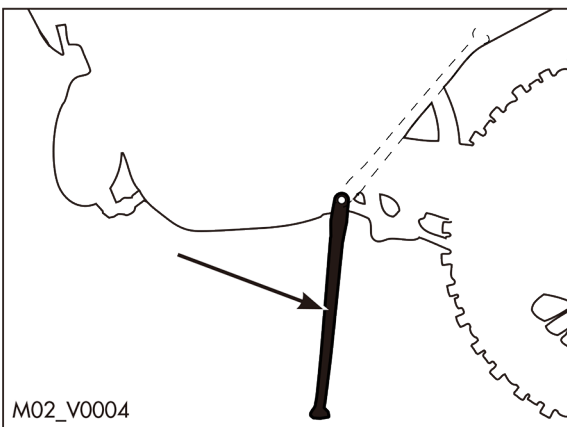
リアブレーキはペダルを踏むことで作動します。



キックスターター (オプション)

キックスターターはエンジン右側に装備できます。

キックスターターの上部は向きを変えることができます。

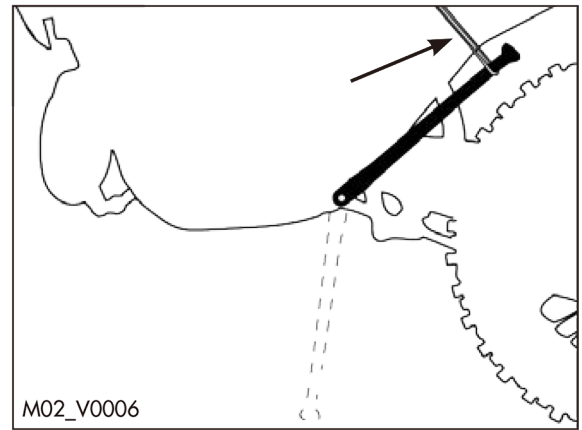


サイドスタンド

サイドスタンドを足で押し下げ、車両を立てかけます。

地面が固く、車両がしっかりと立っていることを確認してください。

車両をオフロードで使用する場合は、閉じたスタンドを輪ゴムでさらに固定することができます。



キー

車両には 2 つのキー（1 つのキーとそのスペア）が付属しています。

ステアリングロック

ステアリングロックを掛けるには：

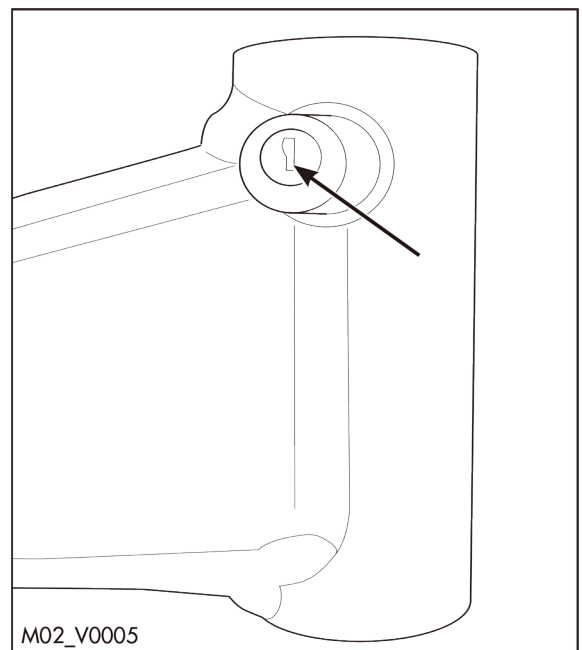
- ハンドルバーを反時計回りに回します。
 - キーを押して反時計回りに回します。
- この位置からキーを取り外します。

ステアリングロックを外すには：

- キーを時計回りに回します。
 - ハンドルバーを時計回りに回します。
- この位置から、ハンドルバーは自由に動き、キーを抜くことができます。

警告：スペアキーは車内に保管せず、安全な場所に保管してください。

キーに刻印されているコード番号をメモすることをお勧めします。このコード番号で、スペアを取得できます。



2 デジタルメーター操作手順





主要な部分

操作

スピードメーター

表示範囲: 0~360km/h (0~225 MPH)
表示単位: km/h または MPH

表示灯

ハイビームライト (青) 
混合オイル量 
MIL (エンジンの不具合) 
ウインカー (緑) 

セレクトボタン

メイン画面のセレクトボタンを押して、
12/24時間モード、スピードメーター記録、
トップウォッチ、MAX記録を切り替えます。

タイム

クロック: 12h/24h モード
ストップウォッチ: セットアップ距離
に従って、テスト時間を記録します。
スピードログ:
平均速度と最高速度の記録

バッテリー

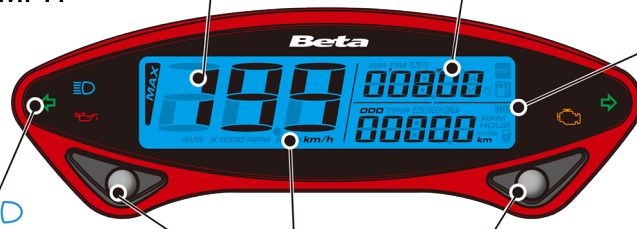
内部バッテリーレベル:
表示範囲: 4段階

アジャストボタン

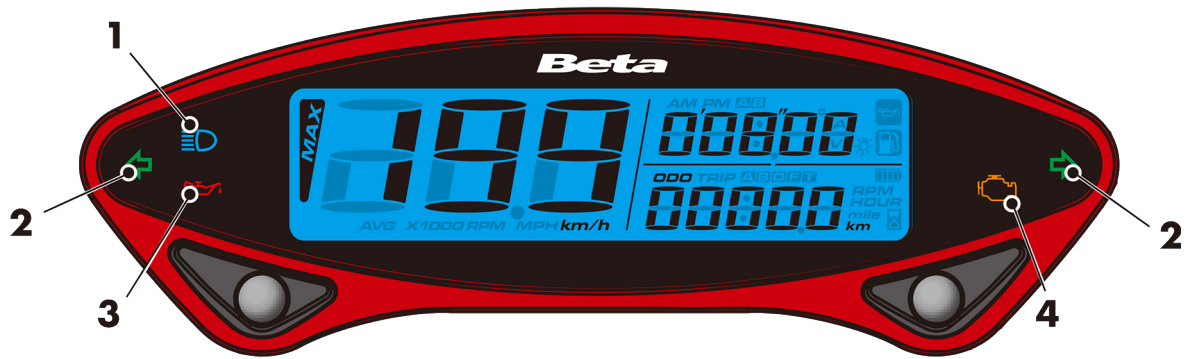
メイン画面のアジャストボタンを押して
ODO、TripA/B、積算時間計
時間計 A/B を切り替えます
トリップ A/B 画面でアジャストボタンを
3 秒間押し続けてリセットします
アワーマーターA/B画面でアジャストボタンを
3秒間押し続けるとリセットされます

オドメーター

表示範囲: 0~99999 km (マイル)、99999 km (マイル) 後に
自動的にリセット
表示単位: 1km (マイル)
トリップメーター
表示範囲: 0~9999.9km (マイル)
999.9 km (マイル) 後に自動的にリセットされます
表示単位: 0.1km (マイル)



警告灯



1 ヘッドライトインジケータ

システムは、メインビームの作動と同期してインジケータを作動させます。

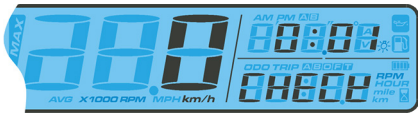
2 方向指示灯

システムは方向指示器の作動と同期して方向指示器を作動させます。

3 ミキサーオイルレベル表示灯

警告灯が点灯したら、早めに給油してください。ミキサータンクのリザーブは0.21リットルです。2ストロークモーターオイルを補給してください。

4 MIL インジケータ ライト (エンジン管理システムの故障)



エンジン管理システムの故障を示します。認定されたベータモーター代理店にできるだけ早く連絡してください。



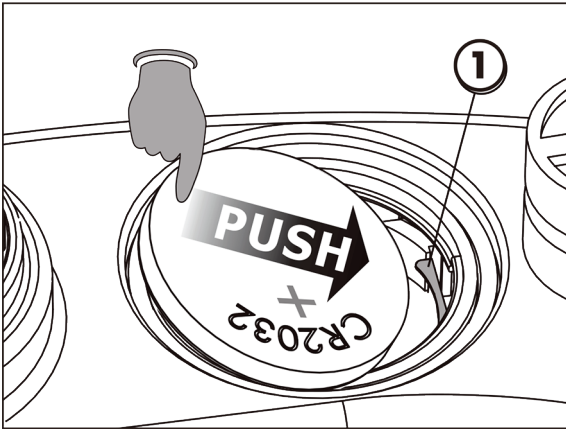
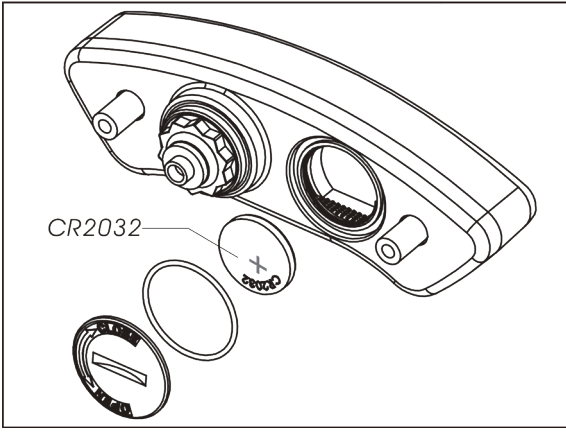
車両バッテリー電圧表示

走行中は車両のバッテリー電圧を表示します。

警告：

電圧値が点滅する場合は、エンジンを停止し、68ページの説明に従ってバッテリーを外します。

正規の BETAMOTOR カスタマー サービスにお問い合わせください。



電池の交換

正しく取り付けるには、次の手順に従ってください。

メーターには内蔵バッテリー (CR2032) が含まれています。このバッテリーは、電源が切れた場合にのみ交換してください。

交換の際はヘッドライトマスクを取り外します。装置の後ろにある電池カバーを取り外し、電池を引き出します。

バッテリーを正しく取り付けるには、図に示すようにバッテリーを押し、バッテリーが金属製のタブ **(1)** の下にあることを確認します。



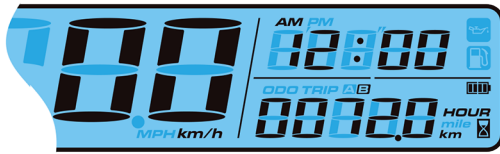
警告：

この手順に従わないと、メーターに恒久的な損傷を与える可能性があります。

アジャストボタン機能の説明

	<p>メイン画面でアジャストボタンを1回押すと、オドメーターからトリップに機能が切り替わります。</p>  <p>メイン画面で、アジャストボタンを3秒間押し続けると、速度とスペースの単位を km/h と km から MPH とマイルに、またはその逆に変更できます。</p> 
	<p>アジャストボタンを押すと、トリップ A からトリップ B に切り替わります。</p>  <p>アジャストボタンを3秒間押し続けると、トリップ A がリセットされます。</p> 
	<p>アジャストボタンを押して、トリップ B から積算時間計に切り替えます。</p>  <p>アジャストボタンを3秒間押し続けると、トリップ B がリセットされます。</p> 
	<p>アジャストボタンを押すと積算時間計から時間計 A に切り替わります。</p> 
	<p>アジャストボタンを押すと、アワーメーター A からアワーメーター B に切り替わります。</p>  <p>アジャストボタンを3秒間押し続けると、アワーメーター A がリセットされます。</p> 

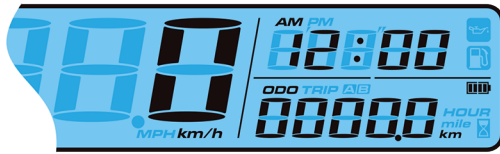
時計 (時) 設定



アジャストボタンを押すと、
アワーメータ B からメイン画面に戻ります。

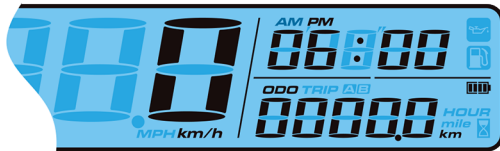


アジャストボタンを 3 秒間押し続けると、
アワーメータ B がリセットされます。



メイン画面に戻る。

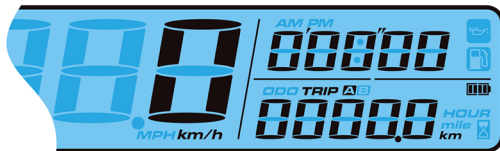
セレクトボタン機能の説明



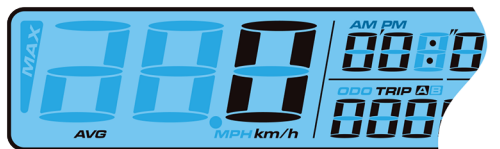
メイン画面でセレクトボタンを押すと、
時計からストップウォッチに切り替わります。
セレクトボタンを 3 秒間押し続けて、
12/24 時間モードを切り替えます。



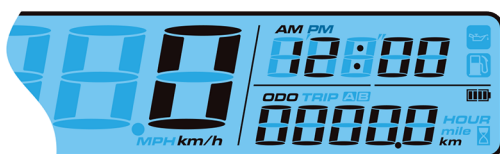
注：24 時間モードが選択されている場合、
AM/PM 記号は表示されません。



セレクトボタンを押して、
ストップウォッチから速度記録に切り替えます。
ストップウォッチをリセットするには、
セレクトボタンを 3 秒間押し続けます。



セレクトボタンを押して、
速度記録からメイン画面に戻ります。
速度記録をリセットするには、
セレクトボタンを 3 秒間押し続けます。

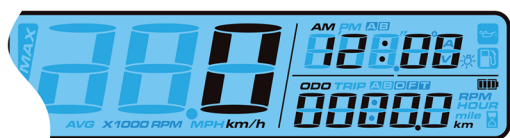


メイン画面。

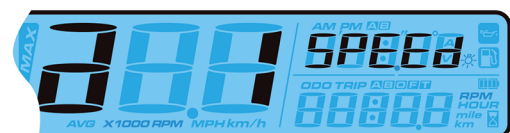
注：エンジンオイルライトが点灯した場合は、
この画面でエンジンオイルライトをリセットして
走行距離を再計算します。

注：平均速度と最大速度は 3 秒回転で表示されます。

設定モードの入り方 アジャストボタン+セレクトボタン指示機能

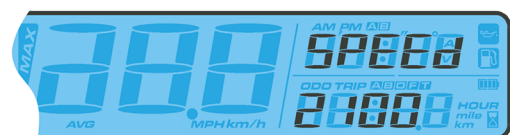


メイン画面で、アジャストボタン+セレクトボタンを3回押して、タイヤの円周とセンシングポイントの設定を入力します。
(異なるサイズのタイヤを変更する場合)

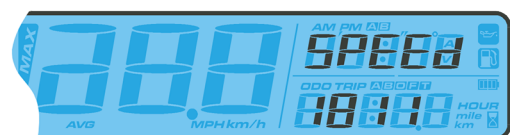


タイヤ周長とセンサーポイントの設定。
アジャストボタンを押して、
タイヤ周長設定に入ります。

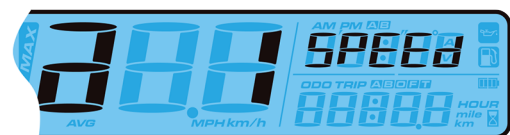
タイヤ周長とセンシングポイントの設定



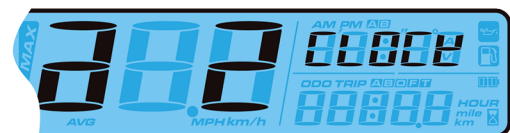
タイヤの円周は2100mmです。
セレクトボタンを押して設定を変更します。
注：タイヤ周長の設定範囲は
2100mm / 1811mm です。



タイヤ周長設定を2100mmから1811mmに変更。
アジャストボタンを押すと
タイヤ周長設定画面に戻ります。



21 から **22** に画面を切り替えます
アジャストボタンを押して、
速度 (時) 設定に入ります。



セレクトボタンを押して、
時計 (時) 設定に入ります。

時計 (時) 設定



例：時間を 14 時に設定する。
セレクトボタンを押して、設定したい時間を選択する。
 注：設定範囲：0-23 H.
 注：カーソル移動の順序：
 時 > 分 10 桁 > 単数
 分の桁

これで、設定が 0:00 から 14:00 に変更されました。

アジャストボタンを押して、分の設定に入ります。


時計 (分) 設定



例：設定を 14:05 に変更します。
セレクトボタンを押して、設定する分を選択します。
 注：設定範囲：0-59 分。

これで、分が 14:00 から 14:05 に変更されました。

アジャストボタンを押して時計設定画面に戻ります。




a 2 から **a 3** へ画面を切り替えます。


セレクトボタンを押すとストップウォッチ距離設定入力画面に切り替わります

アジャストボタンを押して、ストップウォッチの距離設定に入ります。

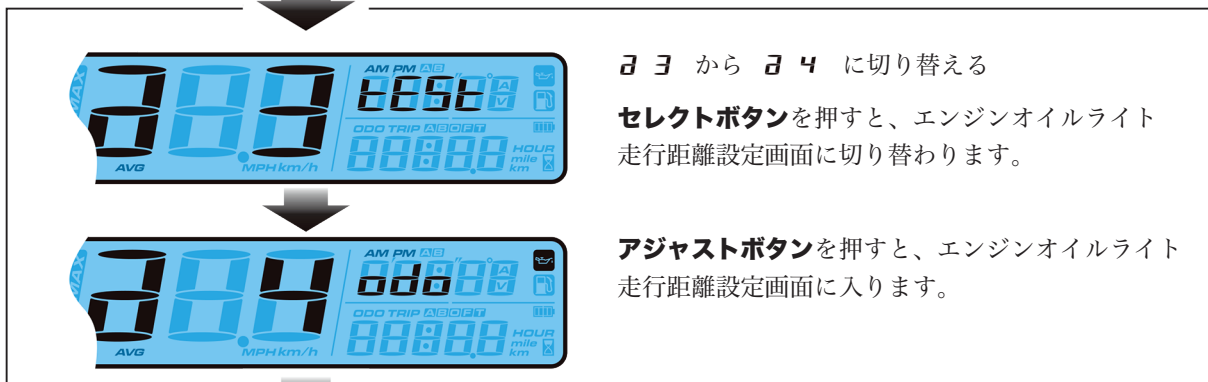
ストップウォッチの距離設定



セレクトボタンを押して、自動 / 手動ストップウォッチ機能を選択します。自動を選択した場合は、**アジャストボタン**を押してストップウォッチ設定機能を終了します。



注：デフォルト：自動



23 から 24 に切り替える

セレクトボタンを押すと、エンジンオイルライト
走行距離設定画面に切り替わります。

アジャストボタンを押すと、エンジンオイルライト
走行距離設定画面に入ります。

メンテナンスライト 走行距離設定



セレクトボタンを押して、メンテナンス走行距離の
オンまたはオフを選択します。

注：デフォルトではオフ

オンを選択した場合は、**アジャストボタン**を押して
メンテナンス走行距離設定に入ります。

アジャストボタンを押してカーソルを
設定したい桁に移動します。

オフを選択した場合は、**アジャストボタン**を押して
メンテナンス走行距離設定を終了します。



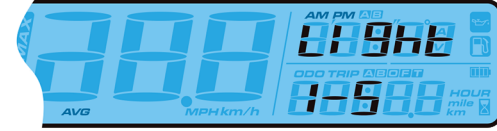
セレクトボタンを押して、ODO 設定画面を
24 から 25 に切り替えます。

アジャストボタンを押して、
バックライトの明るさの設定に入ります。

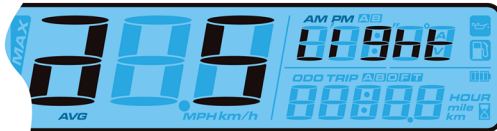
バックライトの明るさ



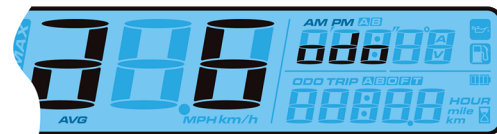
セレクトボタンを押して、
バックライトの明るさを調整します。
注：調整範囲は1～5
注：デフォルトは5



アジャストボタンを押して、
バックライトの明るさの設定から抜け出します。

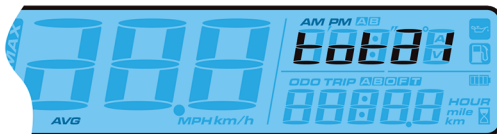


25 から **26** へ画面を切り替えます。

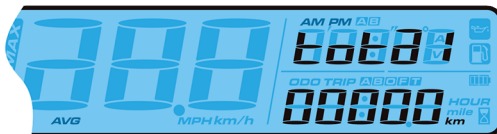


アジャストボタンを押して走行距離設定に入ります。

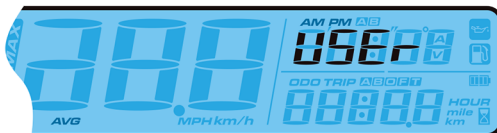
ODO 設定



アジャストボタンを押して、
実際の ODO 表示画面 (ODO) に入ります。
セレクトボタンを押して、
ユーザー ODO 設定 (ユーザー) に入ります。

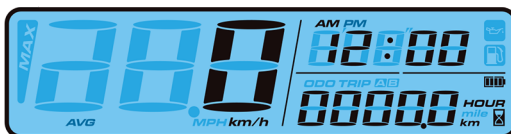


アジャストボタンを押して、
ユーザー ODO 設定に入ります。



アジャストボタンを押して、
ODO 調整機能に戻ります。

セレクトボタンを押して、
ODO 表示調整機能に切り替えます。



設定画面で、
アジャストボタンと**選択ボタン**の両方を
3 秒間押し続けて、設定を確定します。

使用前後のチェック

安全な運転と車両の寿命を延ばすために、次のことを行う必要があります。

- 1 インテークマニホールドを電子ドージングに接続するオイルパイプの完全性をチェックします。
- 2 すべての液体レベルをチェックします。
- 3 ブレーキの正常な動作とブレーキパッドの摩耗を点検します (58 ページ)。
- 4 タイヤの空気圧、一般的な状態、およびトレッドの厚さを確認します (67 ページ)。
- 5 スポークが適切に締め付けられていることを確認します。
- 6 チェーンの張りを点検します (67 ページ)。
- 7 すべてのケーブル コントロールの調整と動作を確認します。
- 8 すべてのナットとボルトを検査します。
- 9 エンジンをかけた状態で、ヘッドライト、リアライト、ブレーキライト、ウインカー、警告灯、ホーンの動作を確認します。
- 10 オフロードでの使用後は、バイクをよく洗ってください (73 ページ)。

慣らし運転

慣らし期間は約 15 時間続きます。その間、次のことを行うことをお勧めします。

- 1 最初の給油は 1% の混合気で行います。
- 2 17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されているオイルを使用してください。
- 3 操作の最初の 3 時間は、エンジンをその出力の約 70% で使用する必要があります。
さらに、エンジン速度は 7,000 rpm を超えてはなりません。
- 4 次の 2 時間の運転では、エンジンをその出力の約 90% で使用する必要があります。
- 5 エンジンを十分に暖機してから使用してください。
- 6 一定の速度で移動することは避けてください (速度を変更すると、さまざまなコンポーネントが均等に、より速くベッドに入ります)。

この手順は、ピストン、ピストン リング、シリンダー、クランクシャフト、またはクランクシャフト ベアリングを交換するたびに実行する必要があります。

警告

最初の 3 時間または 15 リットルの混合オイルの後、トランスミッションオイルを交換します。

2

給油

燃料の仕様については、17 ページを参照してください。
燃料タンクの容量は 11 ページに表示されています。
給油するには、タンクキャップを開けます (19 ページ)。
給油後はキャップをねじ込んでしっかりと締めてください。

操作



警告

給油はエンジンを切った状態で行ってください。



警告：

火災の危険。燃料は可燃性が高い。



給油時は必ずエンジンを停止し、火気や火のついたタバコを近づけないでください。



携帯電話の使用中に燃料を補給しないでください。

換気の良い開放的な場所で給油してください。

燃料が車両の高温部分に触れないように特に注意してください。こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。



警告：中毒の危険。

燃料は有毒な液体であり、健康を害します。



燃料が皮膚、目、衣服に触れないようにしてください。燃料蒸気を吸い込まないでください。目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。燃料を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。燃料で汚染された衣服を交換してください。

警告：環境汚染の危険。

燃料で、地下水、地面、または下水システムを汚染してはなりません。

混合オイルの給油

燃料を補給するには、タンクキャップを開けます（19 ページ）。

燃料タンクの容量は 11 ページに表示されています。

給油後はキャップをねじ込んでしっかりと締めてください。

16 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されているオイルを使用してください。

エンジンの始動

燃料タンクのバルブを ON または RES の位置に動かします（19 ページ）。

ギアがニュートラルであることを確認します（22 ページ）。

クラッチレバーを引きます（20 ページ）。

サイドスタンドを閉じます（22 ページ）。

スターターボタンを押す（ページ 21）：


エンジンが始動するまでボタンを押してください。

エンジン作動中はボタンを押さないでください。

コールドスタート：

スターターを操作し（21 ページ）、車両を始動し、数秒待ってから、スターターを開始位置に戻します。

エンジンの停止

エンジンを停止するには、左側のスイッチ ユニット（21 ページ）のボタン  を押します。

注：エンジンを停止した状態で、燃料コックが OFF になっていることを確認します（19 ページ）。

3

第3章 調整


コンテンツ

調整

記号	37
ブレーキ	37
フロントブレーキ	37
リアブレーキ	37
クラッチ	38
アクセルワイヤーの調整	38
アイドリングの調整	38
使用条件に合わせたキャブレターセッティング	39
排気弁制御調整	42
ハンドル調整	42
Uボルト位置調整	42
ハンドル位置の調整	43
フロントフォーク	44
リバウンドダンパーの調整	44
スプリングプリロードの調整	44
ショックアブソーバー	44
リバウンドダンパーの調整	44
油圧圧縮ダンパーの調整	44
スプリングプリロードの調整	45
静的サグ荷重試験	45

記号

 締め付けトルク

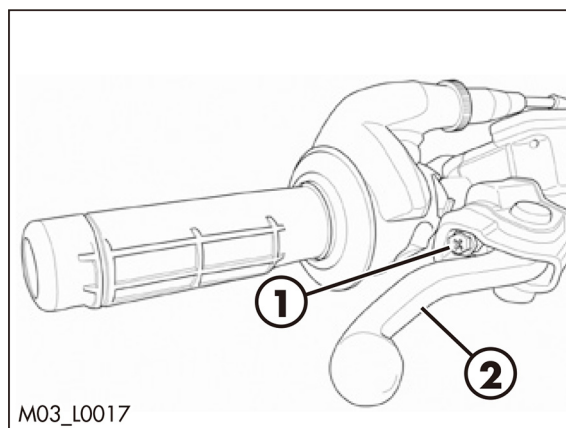
 中強度ネジロック

ブレーキ


フロントブレーキ


フロントブレーキは油圧制御のディスクタイプ。

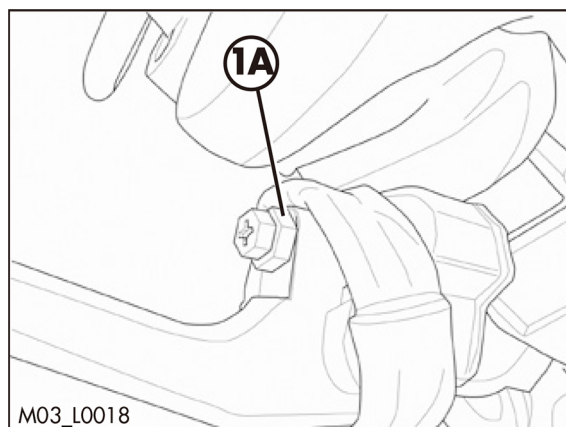
ブレーキレバー **2** のホームポジションはネジ **1** で調整できます。



M03_L0017

 警告！ 調整が完了したら、ロックナット **1A** を締めます。

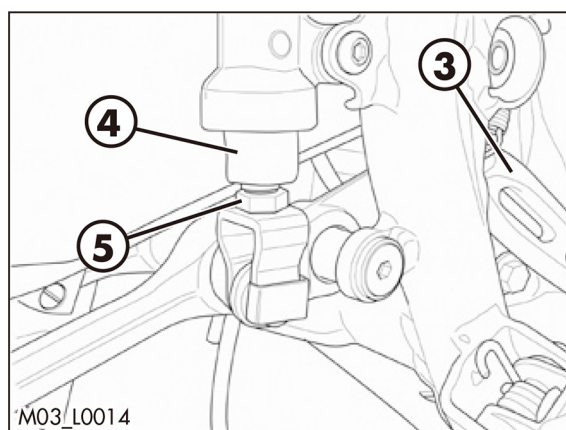
 警告！ 何らかの理由でロックナット **1A** を取り外さないでください。



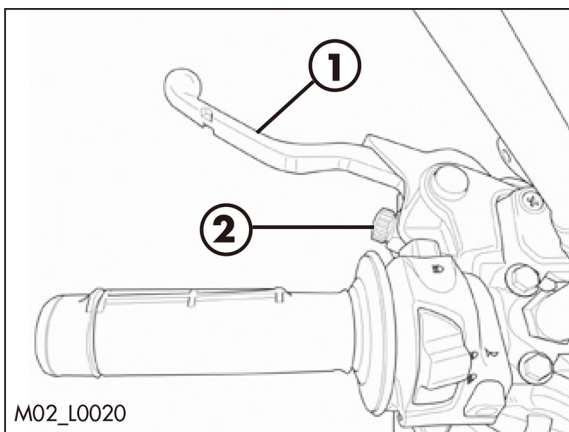
M03_L0018

リアブレーキ

ブレーキペダル **3** のホームポジションは、ダストキャップ **4** の下にあるカウンターナットを緩めた後、アジャストスクリュー **5** を回すことで変更できます。作業終了後、カウンターナットを増し締めしてください。



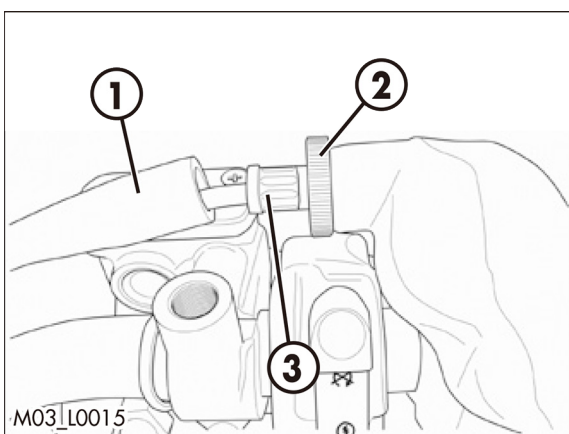
M03_L0014



クラッチ

調整ネジ **1** により、ノブからレバー **2** までの距離を調整できます。

空のランは自動的に回復されます。

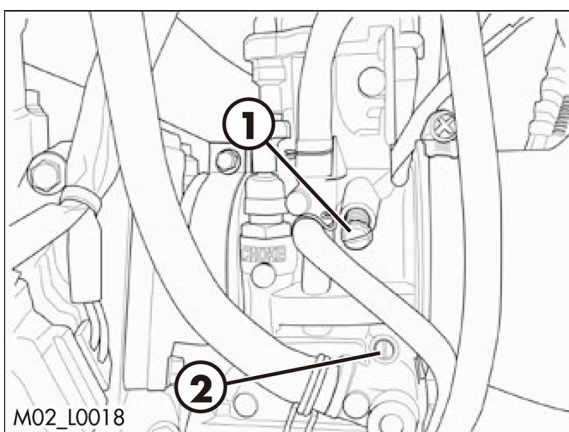


スロットルワイヤーの調整

スロットルコントロールケーブルには、常に 3 ~ 5 mm の遊びが必要です。さらに、ハンドルバーを左または右に完全に回転させたときに、アイドル速度が変化しないようにする必要があります。

保護キャップ **1** を押し戻します。カウンターナット **2** を緩め、調整ねじ **3** を回します。

カウンターナットを締め、スロットルツイストグリップがスムーズに回ることを確認します。



アイドリングの調整

アイドリング調整は、適切な発進やアクセルレスポンスに大きく影響します。

アイドリングはアジャストスクリュー **1** とエアアジャストスクリュー **2** で調整します。アジャストスクリュー **1** はガスバルブの基準位置を調整します。ネジを時計回りに回すと回転条件が上がり、反時計回りに回すと下がります。エア調整スクリュー **2** は、アイドリング用燃料への混合量を調整する。スクリューを反時計回りに回すと空気の量が多くなり（薄い混合）、時計回りに回すと空気の量が少なくなります（濃い混合）。

アイドリング速度を適切に調整するには、次の手順に従います。

- エア調整ネジ No. を締めます。2 キャブレターセッティング表（13 ページ）に記載の値まで緩めます。
- エンジンを約 10 秒間暖めます。動作温度に達するまで 5 分。
- アイドリングが減少し始めるまで、空気調整ねじ **2** をゆっくりと時計回りに回します。
- 位置に印を付けて、ゆっくりと空気調整ねじを回します。**2** 反時計回りに、アイドリングが再び低下するまで。
- これら 2 つの位置の間で、最も高いアイドリング ポイントでネジを調整します。

上記の調整で回転数が著しく上昇した場合は、アイドリングを下げて通常の状態に戻してから、上記の手順を実行してください。

手順の後に満足のいく結果が得られない場合、これは不適切な低速ジェットが原因である可能性があります。

空気調整ネジを完全に締めても rpm が変わらない場合は、より小さなサイズのスローランニング ジェットを使用する必要があります。

ジェット交換後、再度調整作業を行ってください。

注：

適切なアイドリングは 1500 ～ 1600 rpm である必要があります。

使用条件に応じたキャブレターセッティング

次の表を参照して、周囲温度と高度に応じてキャブレターの設定を調整してください。

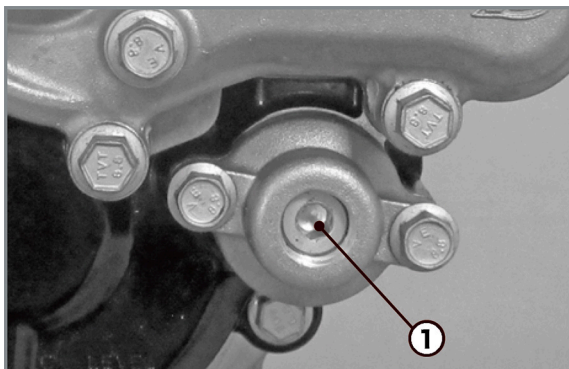
凡例：

SLM	海拔
AVA	エアスクリー開口部（全閉から）
Gm	スロージェットジェット
SPL	ニードル
POS	ニードル位置（上から）
GM	メインジェット
VLV	バルブ

 設定基準

XTRAINER 250 2T							
標高 (SLM)	キャブレター 設定	気温					
		-20°C ÷ ÷-7°C	-6°C ÷ 5°C	6°C ÷ 15°C	16°C ÷ 24°C	25°C ÷ 36°C	37°C ÷ 49°C
		-2°F ÷ 20°F	19°F ÷ 41°F	42°F ÷ 60°F	61°F ÷ 78°F	79°F ÷ 98°F	99°F ÷ 120°F
3000 m	AVA	1,25	1,5	1,5	2	2	
10000 ft	Gm	35	35	35	35	35	
↑	GM	155	152	150	148	145	
	SPL	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK	NOZL	
2301 m	POS	3	3	3	2	1	
7501 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	
2300 m	AVA	1,25	1,25	1,5	1,5	2	2
7500 ft	Gm	38	35	35	35	35	35
↑	GM	158	155	152	150	148	145
	SPL	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK	NOZL
1501 m	POS	3	3	3	3	2	1
5001 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
1500 m	AVA	1,25	1,25	1,25	1,5	1,5	2
5000 ft	Gm	38	38	35	35	35	35
↑	GM	160	158	155	152	150	148
	SPL	NOZJ	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK
751 m	POS	4	3	3	3	3	2
2501 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
750 m	AVA	1,25	1,25	1,25	1,25	1,5	1,5
2500 ft	Gm	40	38	35	35	35	35
↑	GM	162	160	158	155	152	150
	SPL	NOZJ	NOZJ	NOZK	NOZK	NOZK	NOZK
301 m	POS	5	4	3	3	3	3
1001 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
300 m	AVA	1	1,25	1,25	1,25	1,25	1,5
1000 ft	Gm	40	40	38	38	35	35
↑	GM	165	162	160	158	155	152
	SPL	NOZJ	NOZJ	NOZJ	NOZK	NOZK	NOZK
0 m	POS	5	5	4	3	3	3
0 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5

XTRAINER 300 2T							
標高 (SLM)	キャブレター 設定	気温					
		-20°C ÷ -7°C	-6°C ÷ 5°C	6°C ÷ 15°C	16°C ÷ 24°C	25°C ÷ 36°C	37°C ÷ 49°C
		-2°F ÷ 20°F	19°F ÷ 41°F	42°F ÷ 60°F	61°F ÷ 78°F	79°F ÷ 98°F	99°F ÷ 120°F
3000 m	AVA	1,5	2	2	2,5	2,5	
10000 ft	Gm	35	35	35	35	35	
↑	GM	155	152	150	148	145	
	SPL	NOZJ	NOZJ	NOZK	NOZK	NOZK	
2301 m	POS	2	2	1	1	1	
7501 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	
2300 m	AVA	1,5	1,5	2	2	2,5	2,5
7500 ft	Gm	38	35	35	35	35	35
↑	GM	158	155	152	150	148	145
	SPL	NOZJ	NOZJ	NOZJ	NOZK	NOZK	NOZK
1501 m	POS	2	2	2	1	1	1
5001 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
1500 m	AVA	1,5	1,5	1,5	2	2	2,5
5000 ft	Gm	38	38	35	35	35	35
↑	GM	160	158	155	152	150	148
	SPL	NOZI	NOZJ	NOZJ	NOZJ	NOZK	NOZK
751 m	POS	2	2	2	2	1	1
2501 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
750 m	AVA	1,5	1,5	1,5	1,5	2	2
2500 ft	Gm	40	38	38	35	35	35
↑	GM	162	160	158	155	152	150
	SPL	NOZI	NOEI	NOZJ	NOZJ	NOZJ	NOZK
301 m	POS	3	2	2	2	2	1
1001 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5
300 m	AVA	1	1,5	1,5	1,5	1,5	1,5
1000 ft	Gm	40	40	38	38	35	35
↑	GM	165	162	160	158	155	152
	SPL	NOZH	NOZI	NOZI	NOZJ	NOZJ	NOZJ
0 m	POS	4	3	2	2	2	2
0 ft	VLV	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5	7,5



排気弁制御調整

調整ネジ**1**を使用して排気バルブユニットを動的に調整し、エンジンの特性曲線を変更します。

以下の表に示されている位置は、エンジンの動作に最適と考えられる位置です。

排気量 [cm ³]	調整ネジの設定 (全開から)
300	1/4
250	

「全開」位置は、調整ネジの頭と調整カバーが完全に位置合わせされる位置です。

したがって、次のように調整を行う必要があります。

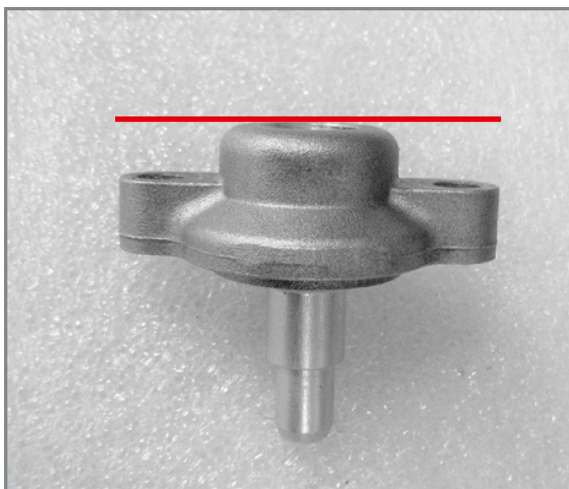
- ・ネジを「全開」の位置まで動かします。
- ・表に記載の回転数で締め付けてください。

上表の位置に対して調整ネジの位置を変更した場合の効果を表に示します。

調整ネジを 時計回りに回す	調整ネジを 反時計回りに回す
流量が柔らかくなり、オーバーレブが少なくなります	加速の向上と低速時のトルクの低減

警告！

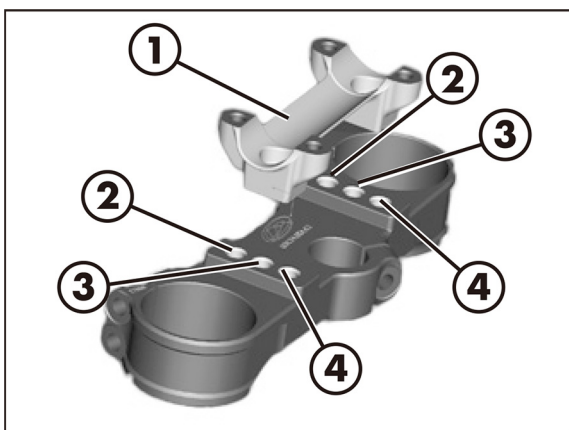
調整ネジは全開位置から 3.5 以上締めないでください。



ハンドルバー調整

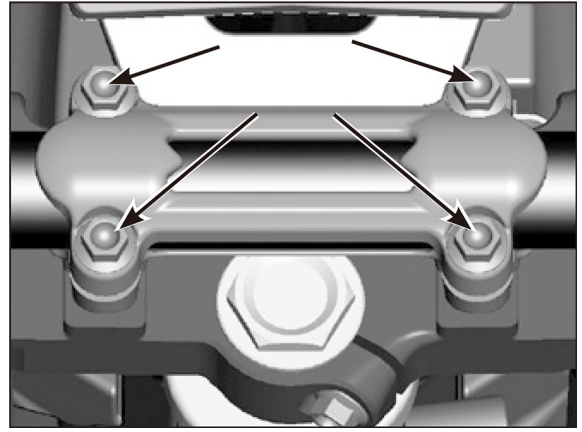
Uボルト位置調整

ロアブラケット**1**は、穴番号**1**に対応して取り付けることができます。それぞれ**2**、**3**、または**4**。



Uボルトの位置を調整するには、図に示されているネジを取り外します。

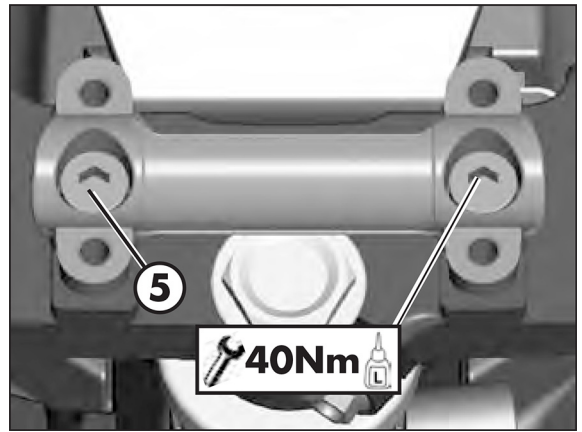
ハンドルバーを取り外します。



ネジ **5** を取り外します。

要件に従ってUボルトを配置します。

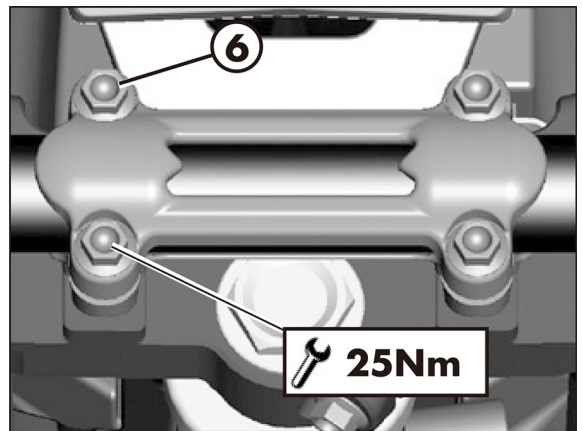
最後に、ねじロック液を塗布した後、ねじ **5** を再度取り付け、指定されたトルクで締めます。



ハンドルバーを取り付けます。

上部のUボルトを取り付けます。

ネジ **6** を再度取り付けます。指示されたトルクで締めます。

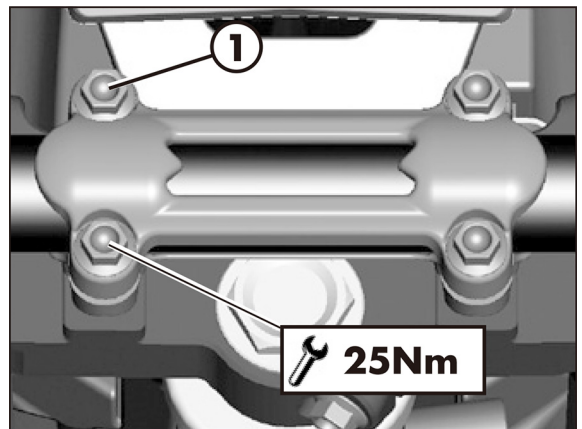


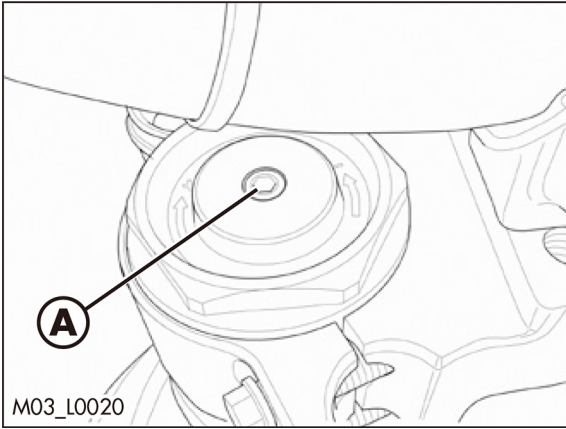
ハンドル位置の調整

ハンドルバーは前後に回転させて調整できます。

ハンドルバーを調整するには、ネジ **1** を緩めます。

必要に応じてハンドルバーを配置します。指示されたトルクで締めます。



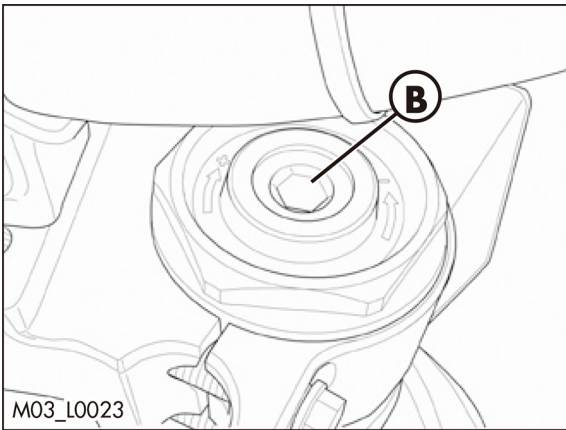


フロントフォーク

リバウンドダンパーの調整

油圧式リバウンドダンパーは、伸張時のテレスコピックフォークの動作を決定し、スクリュー **A** で調整できます。スクリューを時計回りに回すと、リバウンドダンパーの動作が増加します。反時計回りに回すと、リバウンドダンパーの作用が減少します。

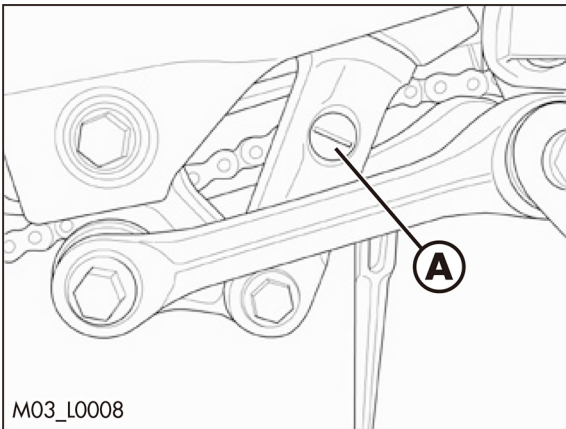
標準校正については、12 ページを参照してください。



スプリングプリロードの調整

スプリングのプリロードはネジ **B** で調整します。時計回りに回すとプリロードが増加し、反時計回りに回すとプリロードが減少します。

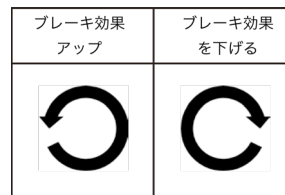
標準設定については、12 ページを参照してください。



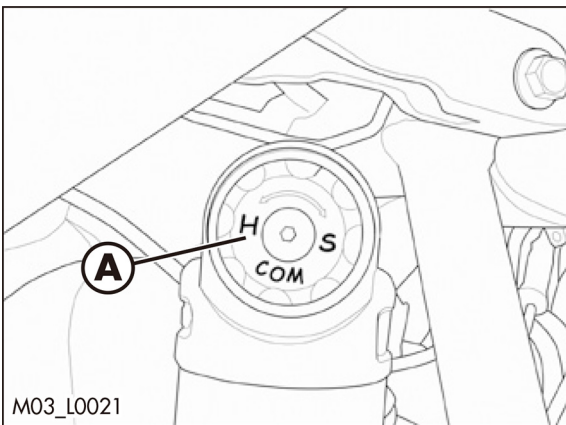
ショックアブソーバー

リバウンドダンパーの調整

スクリュー **A** を回して油圧リバウンドダンパーを調整します。

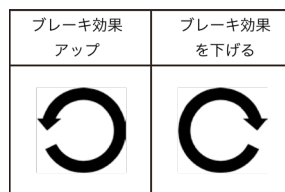


標準設定については、12 ページを参照してください。



油圧圧縮ダンパーの調整

ノブ **A** を回して油圧圧縮ダンパーを調整します。



標準設定については、12 ページを参照してください。

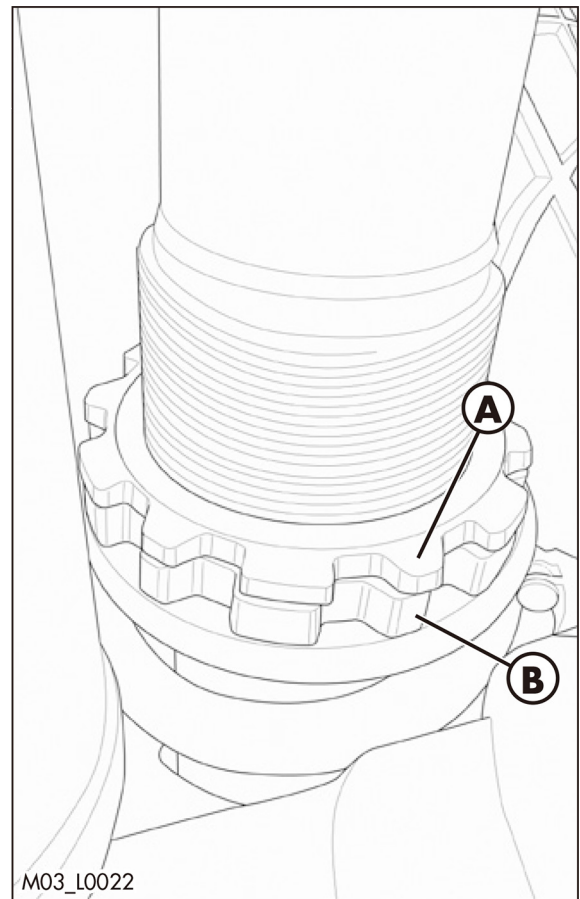
スプリングプリロードの調整

スプリングのプリロードを調整するには、次の手順に従います。

- ・固定ダボ **A** を緩めます。
- ・希望の予圧になるまでリングナット **B** を回します。
- ・ロックダボ **A** をロックします。

標準設定については、12 ページを参照してください。

注：リングの移動には、四角いピンの付いた特定のセクターキーを使用します。

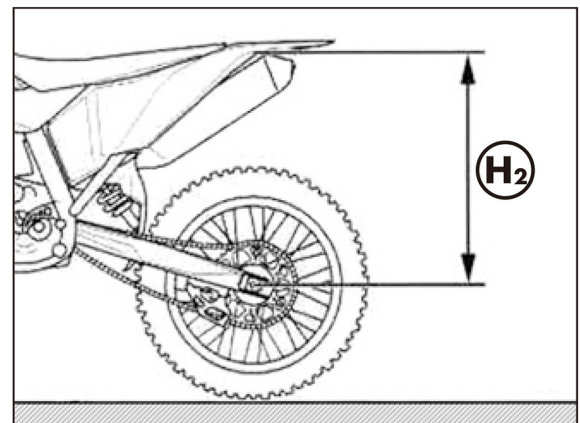
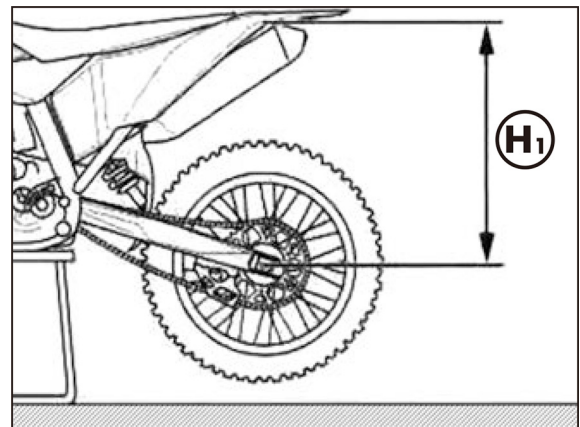


静的サグ荷重試験

ショックアブソーバーの静的サグを確認するには、次の手順に従います。

- オートバイをワークスタンドに置きます。
- リアホイールの車軸とリアフェアリングの基準点との間の垂直距離を測定します。
- 寸法 H1 を書き留めます。
- ワークスタンドを取り外します。
- モーターサイクルを垂直に保ち、ホイールの車軸と前に設定した基準点との間の距離を再度測定します。
- 寸法 H2 を書き留めます。

静的圧縮 $X = H1 - H2$ の値が 12 ページに示されている値と一致していることを確認します。それ以外の場合は、上記のようにスプリングプリロードの調整を実行します。





第4章 点検と保守

コンテンツ

記号	47
エンジンオイル	47
レベルをチェック	47
オイル交換	47
クーラント	48
レベルをチェック	48
クーラントの交換	49
エアフィルター	51
エアフィルターの取り外しと取り付け - XTRAINER 250/300 2T 欧州仕様	52
エアフィルターのクリーニング - XTRAINER 250/300 2T	52
スパークプラグ	53
キャブレター	54
キャブレターフロートチャンバーの排水	54
フロートレベルの確認	55
フロントブレーキ	56
フロントブレーキフルードのレベルを確認する	56
フロントブレーキフルードのレベルの回復	56
フロントブレーキのエア抜き	57
フロントブレーキライニングコントロール	58
ブレーキディスクの厚み制御	58
リアブレーキ	59
リアブレーキフルードのレベルを確認する	59
リアブレーキフルードのレベルを元に戻す	59
リアブレーキのエア抜き	60
リアブレーキライニングコントロール	61
ブレーキディスクの厚み制御	61
クラッチコントロール	62
レベルをチェック	62
エア抜き	63
ステアリングの遊びの確認と調整	64
フロントホイール	65
締め付け	65
フロントフォーク	66
リアサスペンションのレバレッジ	66
タイヤ	67
チェーン	67
チェーンの点検・調整	67
チェーンの摩耗をチェックする	68
ヘッドライト	69
ヘッドライトバルブの交換	69
テールライト	70
バッテリー	70
バッテリーの取り外し	70
バッテリーの組み立て	71
非アクティブ	71
バッテリーの充電	72
ヒューズ	72
車両の清掃	73
一般的な注意事項	73
長時間の非アクティブ	74
定期車両整備	75
締付トルク概要	77

記号

 締め付けトルク

 中強度ネジロック

エンジンオイル

レベルをチェック

車両を直立させます。

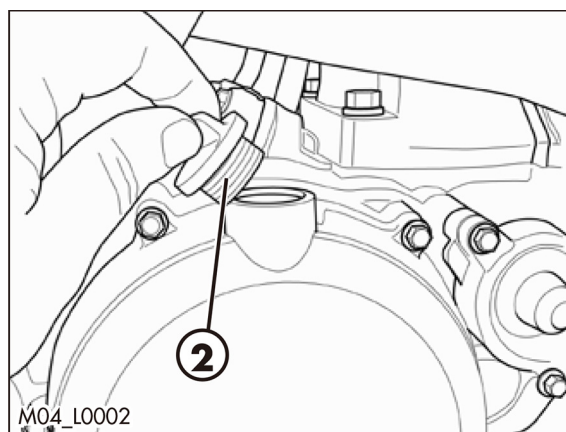
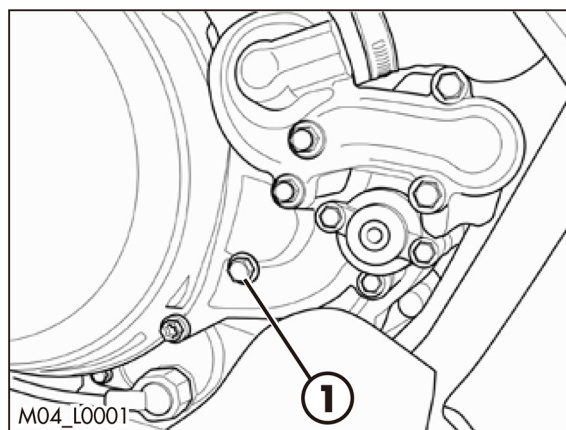
安定性を確保するために、車両を平らなベースに配置します。

点検キャップ **1** を取り外します。

オイルレベルがチェックホールの下端に達している必要があります。

達していない場合は、給油口 **2** からオイルを足します。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されているオイルを使用してください。




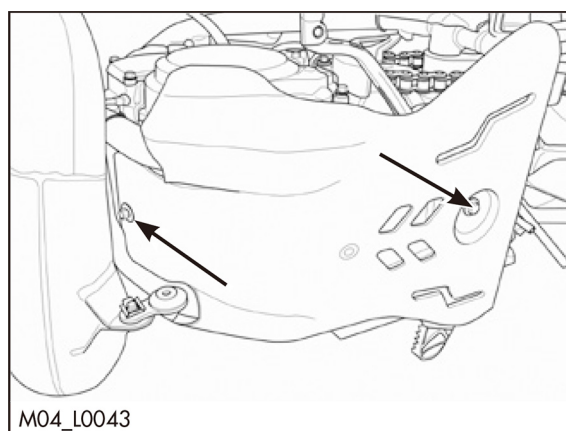
オイル交換

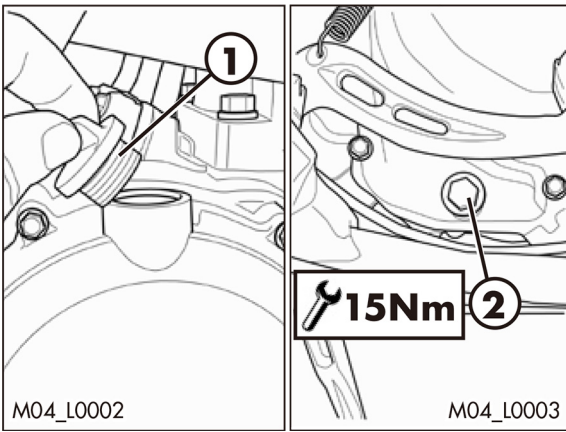
エンジンを暖気してから行ってください。

- 安定性を確保するために、車両を平らなベースに配置します。
- 図に示されているネジを緩めて、スキッドプレートを取り外します。
- エンジンの下に廃油受けを置きます。

警告：

 高温の油は重度の火傷を引き起こす可能性があります。

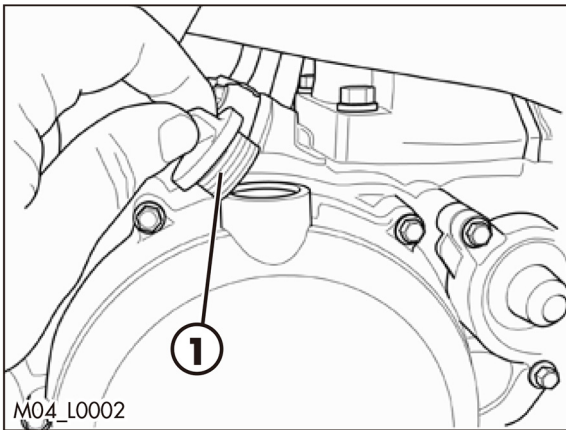




- オイルキャップ **1** とドレンボルト **2** を外します。
- クランクケースからすべてのオイルを排出します。
- ドレンボルト **2** を取り付け、指定されたトルクで締めます。

11 ページに記載されている量の液体を注ぎます。**(オイル量 0.8 リットル)**

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されているオイルを使用してください。



オイルキャップ **1** を再度ねじ込みます。

警告：

有効な規制に従って、使用済みオイルを廃棄してください。

クーラント

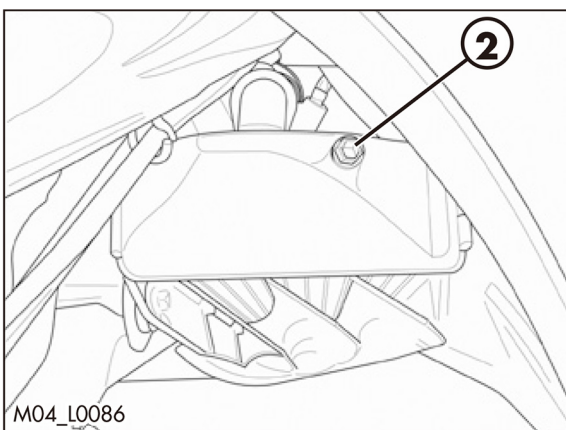
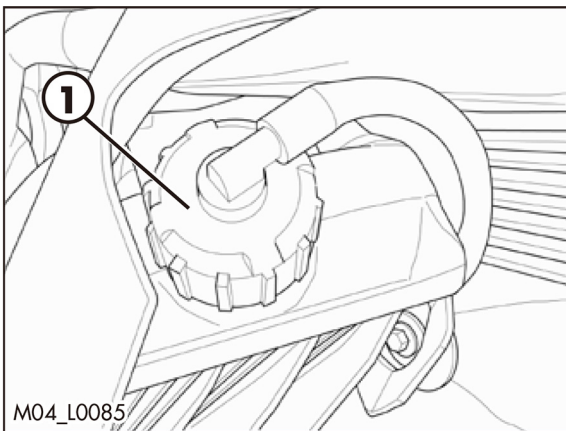
レベルをチェック

地面に対して車両を垂直に保ちます。

エンジンが冷えているときにクーラントのレベルをチェックする必要があります。次の手順を使用します。

- キャップ **1** を緩め、ローディング チューブの下部に液体が見えることを確認します。
- 液体が見えない場合は、ベントスクリュー **2** を取り外し、補充を進めます。
- 操作の最後に、キャップとベントスクリューを取り付けます。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されているオイルを使用してください。



 警告：

エンジンが熱いときは、ラジエーターのフィラー キャップを絶対に緩めないでください。やけどの危険があります！



警告：
適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。



クーラントが皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
- 皮膚についた場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄し、クーラントで汚染された衣服を交換してください。

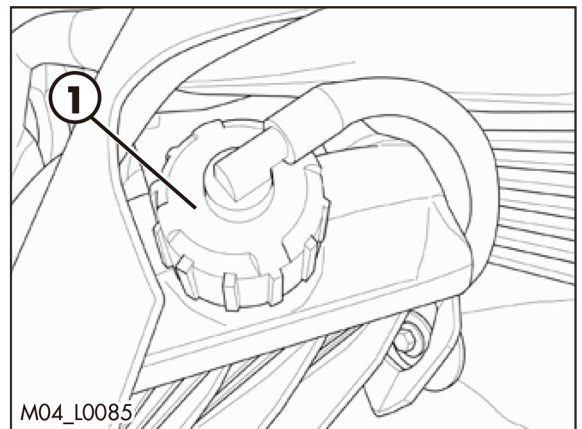
クーラントを飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

クーラントの交換

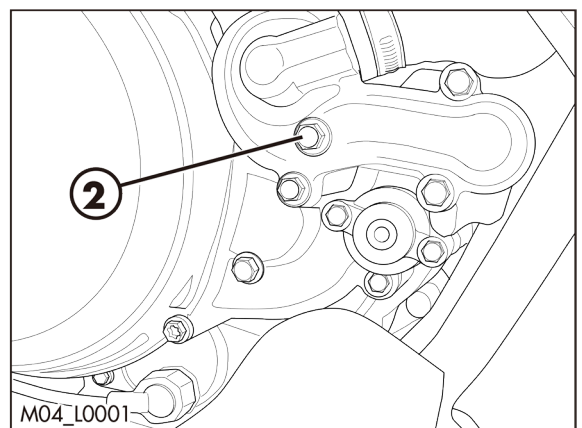
地面に対して車両を垂直に保ちます。

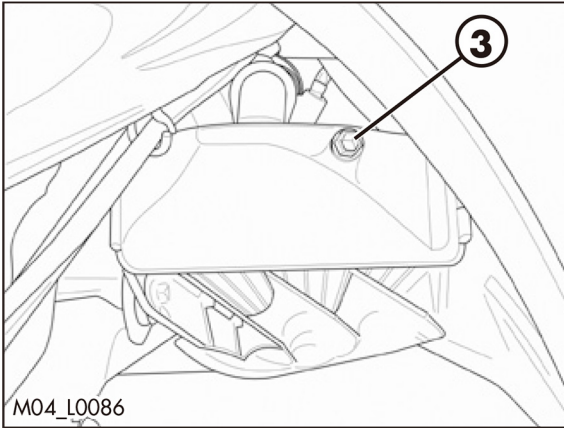
クーラントの交換は、エンジンが冷えているときに行う必要があります。

- キャップ **1** を緩めます。



- スクリュー **2** の下に容器を置きます。
- スクリュー **2** を緩めます。
- 液体を排出します。
- 特定のワッシャーを適用してスクリュー **2** を締めます。





- ドレンスクリュー **3** を緩めます。
 - 充填に進みます。
 - ローディングキャップとブリーディングスクリューを再度取り付けます。
- 液体の量は 11 ページに示されています。
17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

エンジンが熱いときは、ラジエーターのフィラー キャップを絶対に緩めないでください。やけどの危険があります！

警告：

使用済みの液体は、有効な規制に従って廃棄してください。



警告：

適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。



クーラントが皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。これが発生した場合は：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
- 皮膚についた場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄し、クーラントで汚染された衣服を交換してください。

クーラントを飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

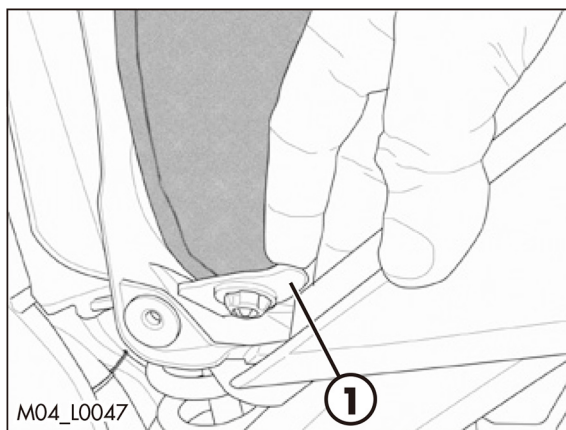
エアフィルター

乗るたびにチェックします。

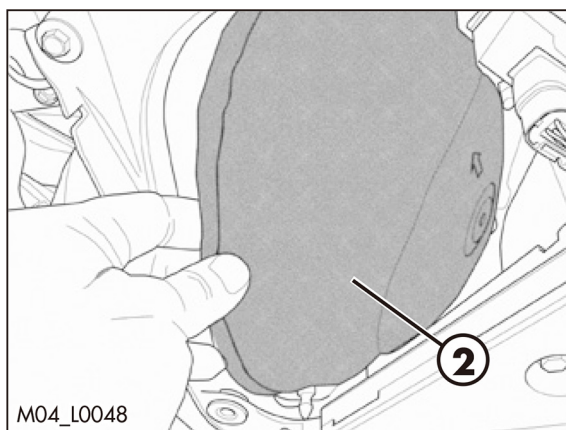
エアフィルターの取り外しと取り付け

フィルターにアクセスするには、次のことが必要です。

- シートを取り外します (78 ページ)。
- カバーエアフィルターを引きます (79 ページ)。



- フィルター留め具 **1** を外す
- エアフィルター **2** を引き出します。



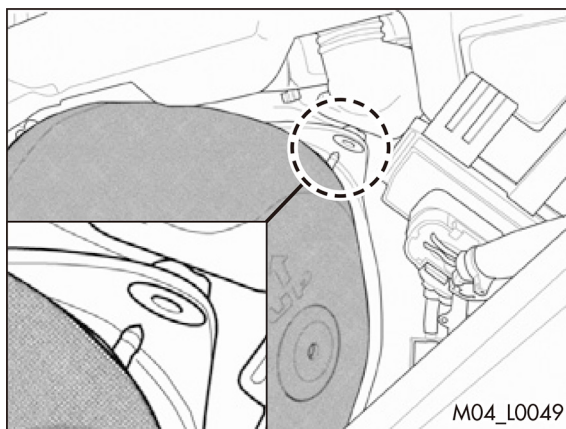
逆の手順で組み立て直します。

警告：

- ❌ 取り外しの後、フィルターボックス内に何も残っていないことを確認してください。

注：

- ❌ フィルターを再度挿入するときは、フィルター ケージのピンが特定のハウジングにはまっていることに注意してください。



注：

- ❌ フィルターが損傷している場合は、すぐに交換してください。
交換するには、正規の Betamotor カスタマー サービスにお問い合わせください。

警告：

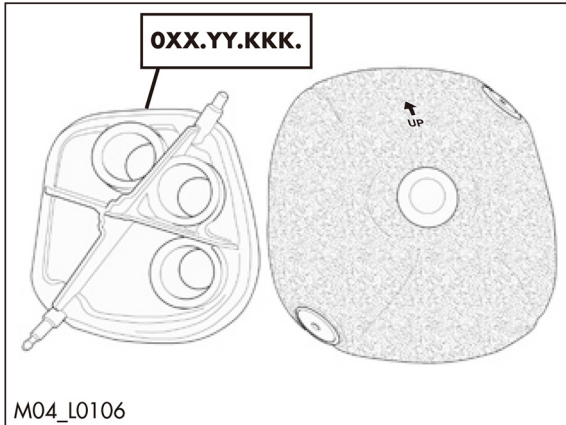
- ❌ エアフィルターが取り付けられていない場合は、絶対に車両を使用しないでください。ほこりや汚れの侵入は、損傷やかなりの摩耗を引き起こす可能性があります。

警告：

- ❌ すべての介入の後、フィルターボックス内に何も残っていないことを確認してください。

4 エアフィルターのクリーニング - XTRAINER 250/300 2T 欧州仕様

フィルタに圧縮空気を吹き付けます。

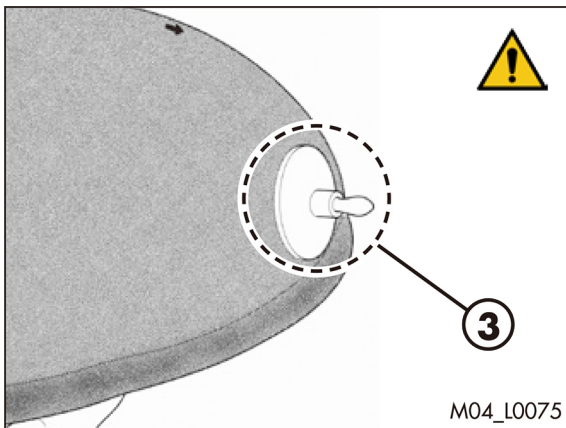


エアフィルタークリーニング - XTRAINER 250/300 2T

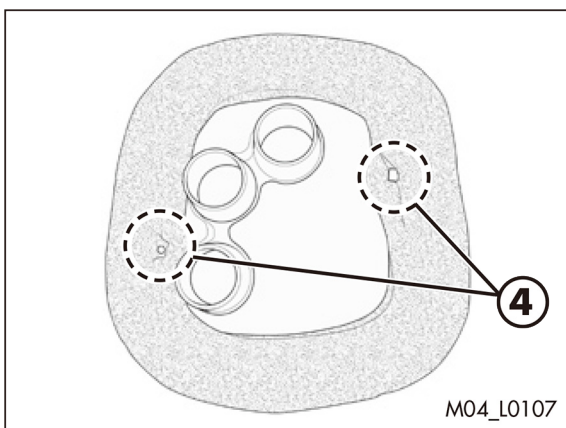
- フィルターを水と石鹼でよく洗います。
- フィルターを乾かします。
- フィルターをフィルターオイルで濡らし、余分なオイルが滴らないように取り除きます。

ケージにスポンジフィルターエレメントを慎重に取り付けます。

- フィルターの符号 UP を、ケージによって示される符号に対応させる。

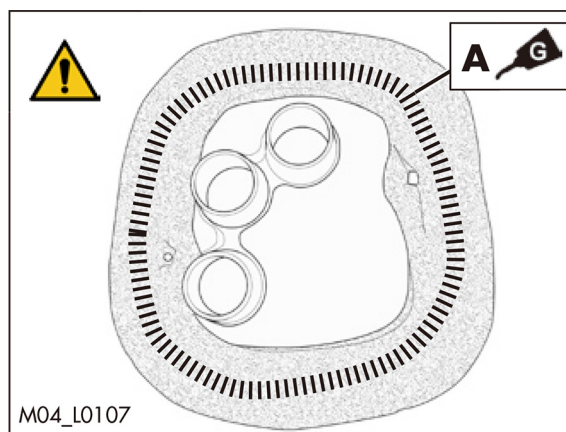


- ケージの段 **3** をフィルターシートに完全に挿入します。



- フィルタの内側の端を、ケージにあるコレスポンデントグラフト **4** に引っ掛けます。

注：フィルターを車両に取り付ける前に、エリア A に長期グリスを塗布することをお勧めします。



スパークプラグ

スパークプラグを良好な状態に保つことは、燃料消費を減らし、エンジン性能を向上させます。

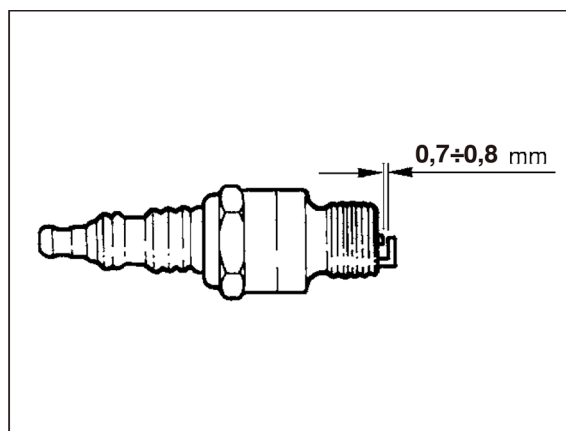
チェックを実行するには、スパークプラグキャップを取り外し、付属のレンチでスパークプラグを緩めます。

ワイヤーブラシを使用して電極を慎重に清掃します。スパークプラグに圧縮空気を吹き付けて、残留物がエンジンに入るのを防ぎます。

フィーラーで電極間の距離を調べます。この距離は 0.7 ~ 0.8 mm である必要があります。そうでない場合は、アース電極を曲げて修正することができます。

また、絶縁体に亀裂や電極の腐食がないことも確認してください。その場合は、すぐに交換してください。

スパークプラグのねじ山に潤滑剤を塗布し、（エンジンが冷えているときに）スパークプラグの端まで手でねじ込みます。最後にスパークプラグをスパナで締めます。



注：

常に 13 ページに記載されているスパークプラグを使用することをお勧めします。



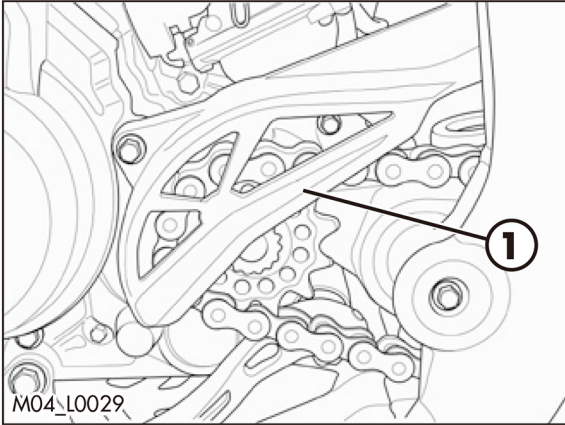
警告：

エンジンが熱いうちはチェックしないでください。

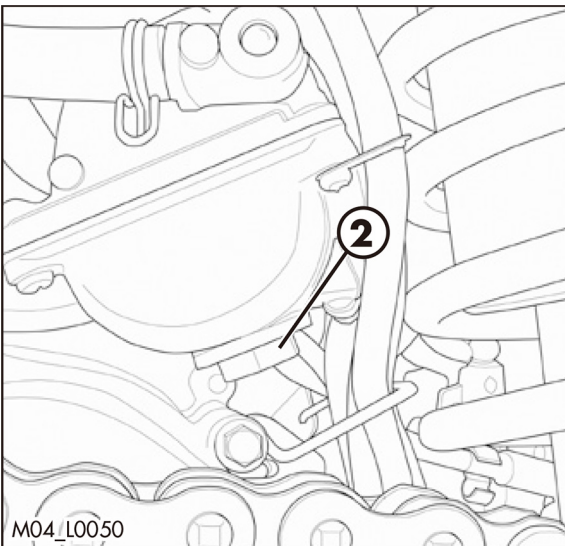
キャブレター

キャブレターフロートチャンバーの排水

キャブレタータンクを空にする必要がある場合は、説明に従って進めてください。



- チェーンプロテクション **1** を取り外し、タンク タップを閉じ、キャブレターの下に布を敷いて、不足した燃料を回収します。



- ドレンスクリュー **2** を開いて燃料を排出します。
- ドレンスクリューを閉めます。
- チェーンプロテクションを取り付け、ネジを 10Nm で締めます。



警告：

冷えたエンジンでの行動に従ってください。



警告：

火災の危険。燃料は可燃性が高い。



給油時は必ずエンジンを停止し、火気や火のついたタバコを近づけないでください。

換気の良い開放的な場所で給油してください。



こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。



警告：

中毒の危険！

燃料は有毒な液体であり、健康を害します。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。

燃料が皮膚、目、衣服に触れないようにしてください。燃料蒸気を吸い込まないでください。目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。燃料を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。燃料で汚染された衣服を交換してください。

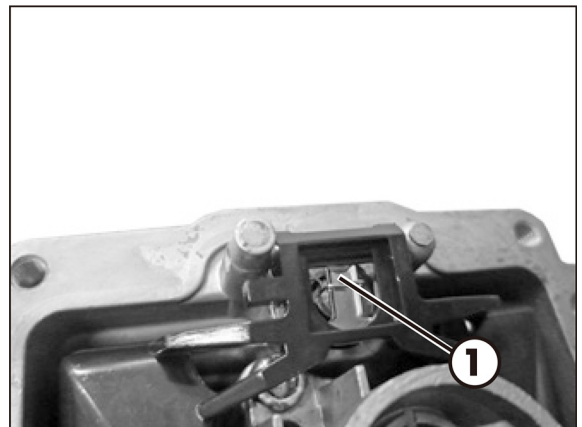
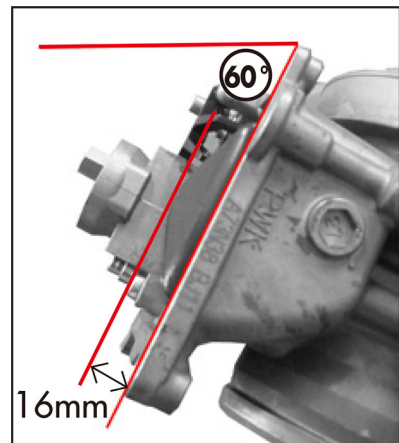
警告：

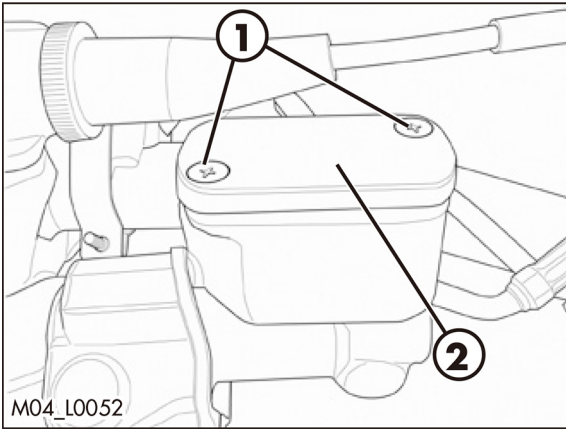
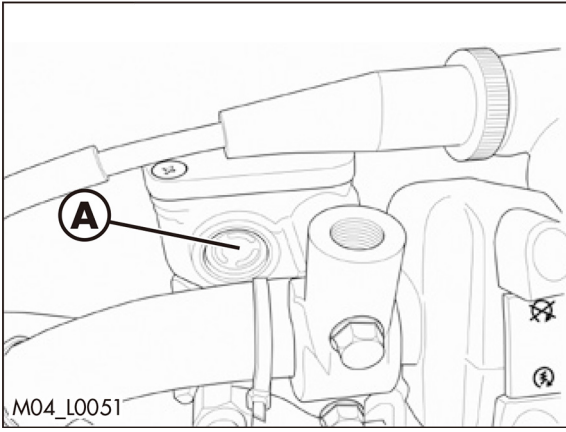
環境汚染の危険！

燃料は、地下水、地面、または下水システムを汚染してはなりません。

フロートレベルの確認

- キャブレターボウルを空にする手順（71ページ）に従って、車両からキャブレターを取り外します。
- フロートチャンバーを取り外します。
- キャブレターを約 60°に保ちます。
- フロートがニードルバルブを押さなくても寄りかかるように傾けます。
- この位置では、フロートの端がフロートチャンバーのシール面と平行になっている必要があります（図を参照）。
- フロートの高さが公称値と一致しない場合は、フロート ニードルバルブをチェックし、必要に応じて交換します。
- ニードルバルブが正常に作動している場合は、フロートレバー **1** を曲げてフロートの高さを調整します。
- キャブレタータンクを組み付け、キャブレターを組み付けてアイドルリングをチェックします。





フロントブレーキ

フロントブレーキフルードのレベルを確認する

ブレーキフルードのレベルをサイト A で確認します。フルードのレベルは、サイトのマークを下回ってはなりません。

フロントブレーキフルードのレベルの回復

ブレーキフルードのレベルを元に戻すには、2 本のスクリュー 1 を緩め、キャップ 2 を持ち上げ、レベルがリザーバーの上縁から 5 mm 下になるまでブレーキフルードを追加します。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

クラッチフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。

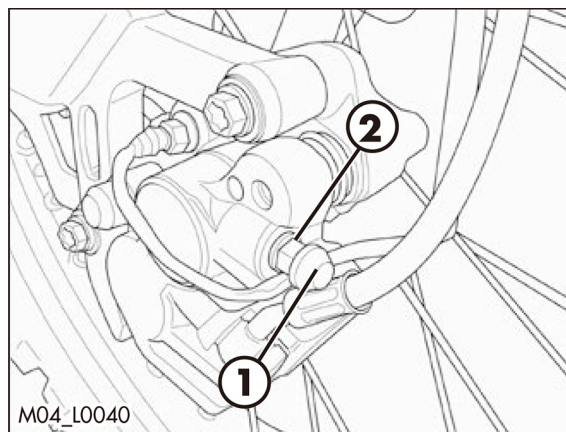
警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
 - 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。
- 液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

フロントブレーキのエア抜き

フロントブレーキホースから空気を抜くには、次の手順に従います。

- バルブ **2** のゴムキャップ **1** を外します。
- サンプキャップを開けます。
- 小さな透明なチューブの一方の端をバルブ **2** に入れ、もう一方の端を容器の中に入れます。
- ブレーキ レバーを 2/3 回ポンピングし、レバーを押したままにします。
- バルブのネジを緩め、オイルを排出します。
- チューブ内にまだ見える場合は、気泡がなくなるまでオイルが連続的に流出するまで、上記の操作を繰り返します。
- バルブを閉め、レバーを離す。



注：

この手順の間、ブレーキフルードが流出するために、ブレーキフルードを継続的に補充します。

- チューブを取り外します。
- ゴムキャップを交換してください。
- オイルリザーバーキャップを閉めてください。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

ブレーキフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。

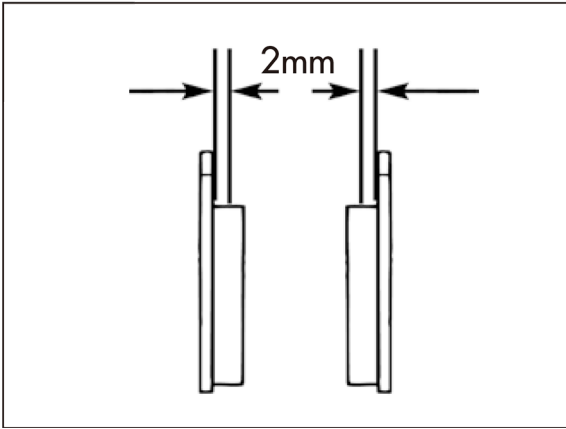


警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。

これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。

液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

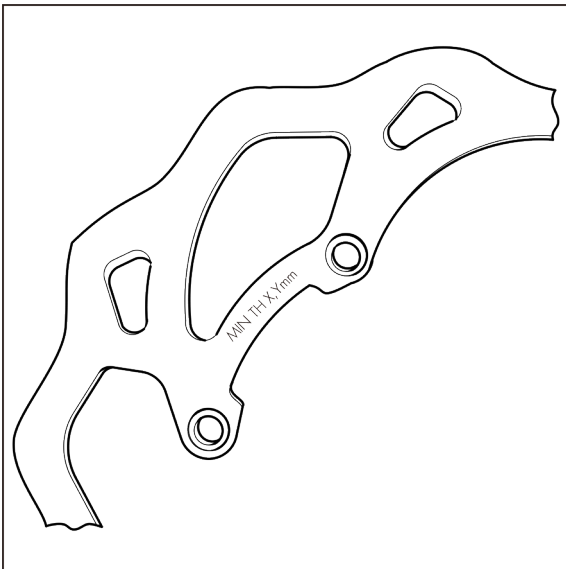


フロントブレーキライニングコントロール

フロント ブレーキの摩耗状態を確認するには、キャリパーを下から見るだけで十分です。ブレーキライニングテールを見ることができます。ブレーキパッドは 2 mm の厚みが必要です。厚みが少ない場合は、ブレーキパッドを交換してください。

注：

75 ページの表に示す時間に従って確認してください。



ブレーキディスクの厚さ制御

ディスクの状態を定期的を確認してください。損傷、静脈、または変形の兆候がある場合は、交換に進みます。

ディスクの厚さを確認します。ディスクには最小厚みが刻印されています。

限界に近づくか限界に達したら、ブレーキディスクを交換してください。

リアブレーキ

リアブレーキフルードのレベルを確認する

ブレーキフルードのレベルをサイト **A** で確認します。フルードのレベルは、サイトのマークを下回ってはなりません。

リアブレーキフルードのレベルを元に戻す

オイル レベルを元に戻すには、オイル フィラー キャップ **1** を使用して補充します。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

ブレーキフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。

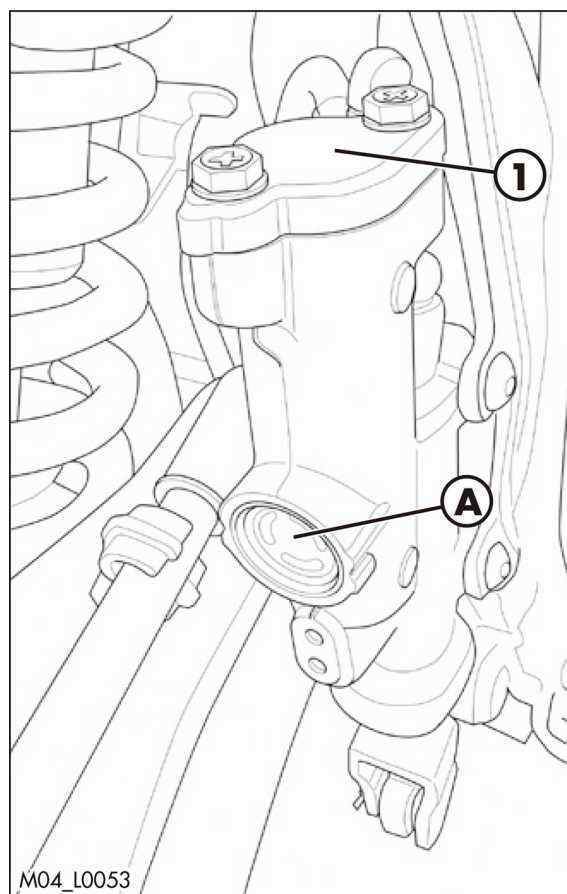


警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。

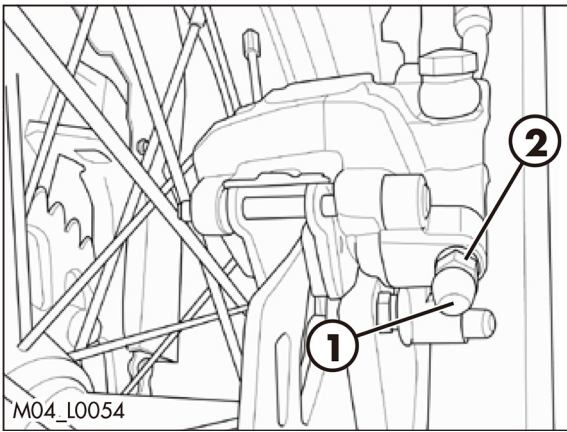
これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。

液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。



M04_L0053



リアブレーキのエア抜き

リアブレーキ回路から空気を抜くには、次の手順に従います。

- バルブ **2** のゴムキャップ **1** を外します。
- サンプキャップを開けます。
- 小さな透明なチューブの一方の端をバルブ **2** に入れ、もう一方の端を容器の中に入れます。
- ブレーキレバーを 2/3 回踏み込み、ペダルを踏んだままにします。
- バルブのネジを緩め、オイルを排出します。
- チューブ内にまだ見える場合は、気泡がなくなるまでオイルが連続的に流出するまで、上記の操作を繰り返します。
- バルブを閉め、レバーを離す。

ノート：

この手順の間、流出しているオイルを交換するために、ブレーキ ポンプを継続的に補充します。

- チューブを取り外します。
- ゴムキャップを交換してください。
- オイルリザーバーキャップを閉めてください。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

ブレーキフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。



警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。

これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。

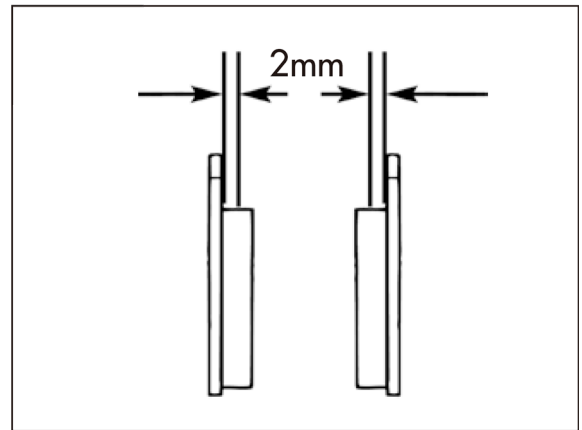
液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

リアブレーキライニングコントロール

フロント ブレーキの摩耗状態を確認するには、キャリパーを下から見るだけで十分です。ブレーキライニングテールを見ることができます。ブレーキパッドは 2 mm の厚みが必要です。厚みが少ない場合は、ブレーキパッドを交換してください。

注：

75 ページの表に示す時間に従って確認してください。

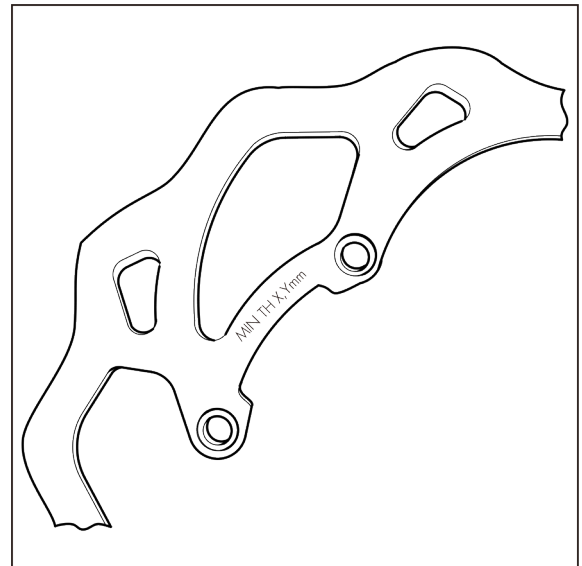


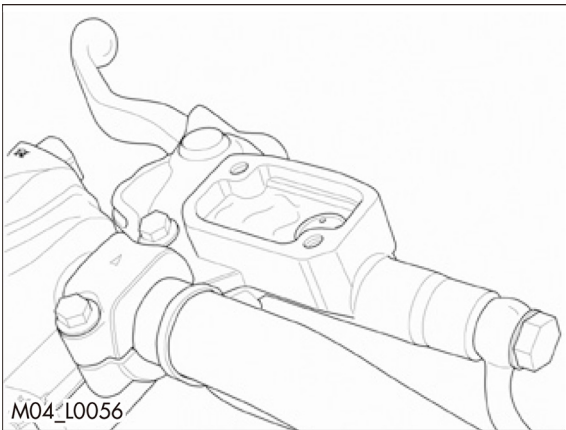
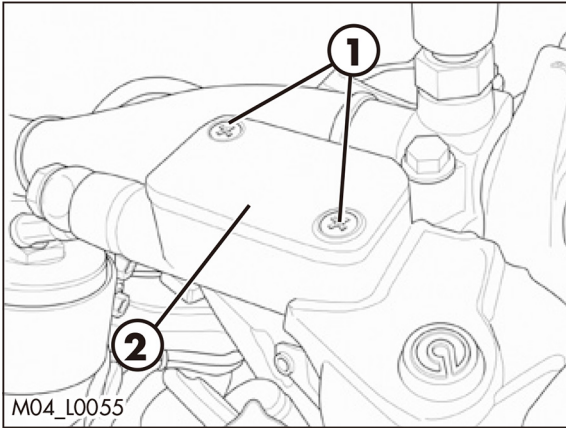
ブレーキディスクの厚さ制御

ディスクの状態を定期的に確認してください。損傷、静脈、または変形の兆候がある場合は、交換に進みます。

ディスクの厚さを確認します。ディスクには最小厚みが刻印されています。

限界に近づくか限界に達したら、ブレーキディスクを交換してください。





クラッチコントロール

レベルをチェック

クラッチポンプのオイルレベルを確認するには、まずカバー **2** を取り外します。ねじ **1** を外し、カバー **1** をゴムベローズごと取り外します。

クラッチポンプが水平位置にある場合、オイルのレベルは上部リムの 5 mm 下にある必要があります。

レベルが規定のトップアップよりも低い場合。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

クラッチフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。



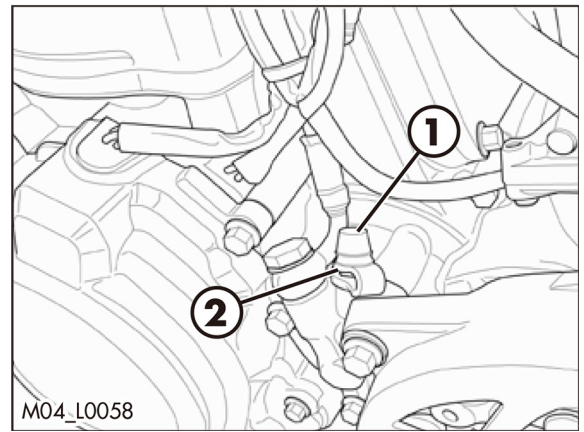
警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。これが発生した場合：

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
 - 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。
- 液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

エア抜き

クラッチポンプから空気を抜くには、次の手順に従います。

- バルブ **2** のゴムキャップ **1** を外します。
- サンプキャップを開けます。
- 小さな透明なチューブの一方の端をバルブ **2** に入れ、もう一方の端を容器の中に入れます。
- クラッチレバーを 2/3 回ポンピングし、レバーを押したままにします。
- バルブのネジを緩め、オイルを排出します。
- チューブ内にまだ見える場合は、気泡がなくなるまでオイルが連続的に流出するまで、上記の操作を繰り返します。
- バルブを閉め、レバーを離す。



注：

この手順の間、ポンプタンクを継続的に補充して、流出している液体を交換します。

- チューブを取り外します。
- ゴムキャップを交換してください。
- オイルリザーバーキャップを閉めてください。

17 ページの「推奨潤滑剤と液体」の表に示されている液体を使用してください。



警告：

クラッチフルードは非常に腐食性があります。塗装面にこぼさないように注意してください。



適切な保護服と保護手袋を着用してください。



クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。

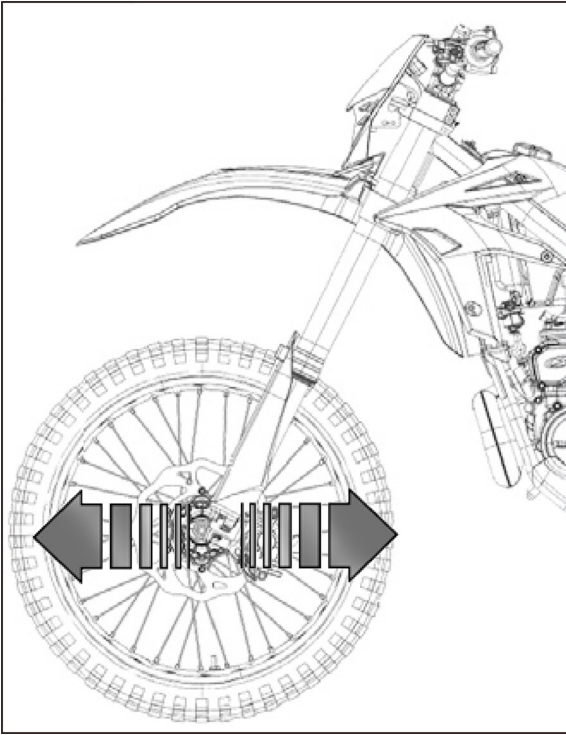


警告：液体が皮膚、目、衣服に直接触れないようにしてください。

これが発生した場合：

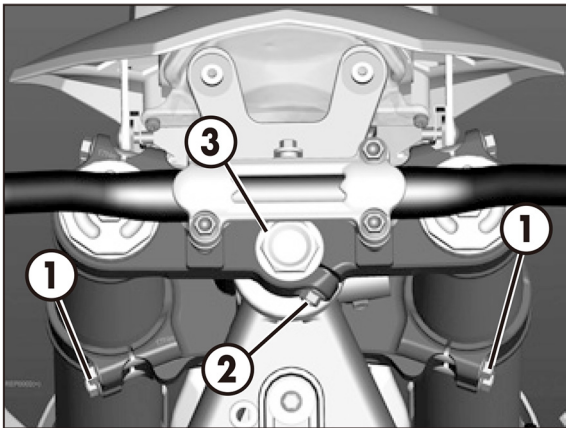
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、汚染された部分を石鹼と水で直ちに洗浄してください。液体で汚染された衣服を交換してください。

液体を飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。

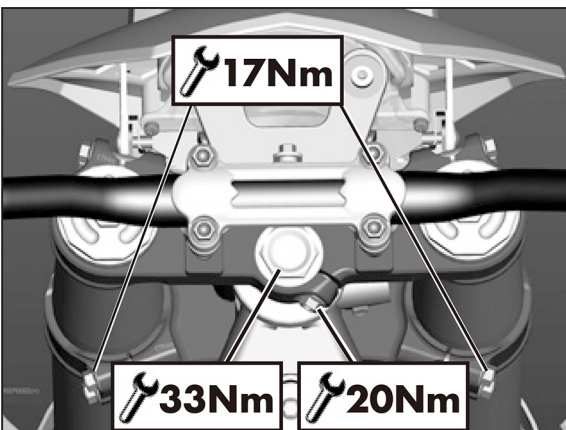


ステアリングの遊びの確認と調整

図のようにフォークを前後に動かして、ステアリングスリーブの遊びを定期的を確認してください。遊びを感じたら、次のように調整します。



- ネジを緩めます **1**
- ネジを緩めます **2**
- ナット **3** を回して遊びを減らします。ネジを規定のトルク値で締めます。

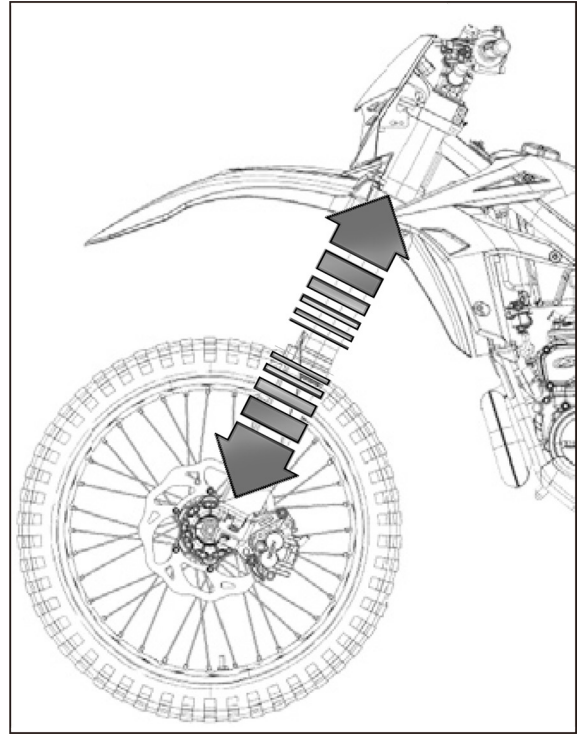


フロントホイール

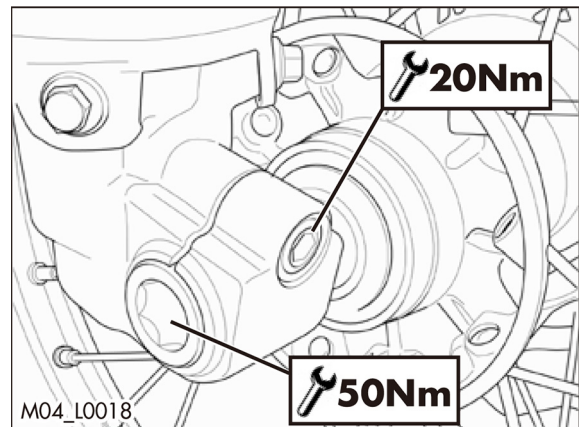
締め付け

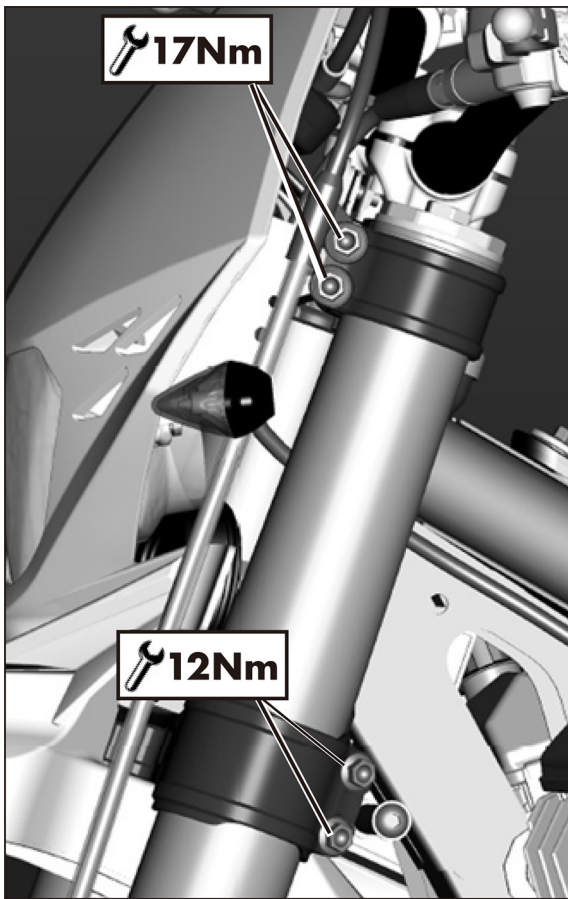
ホイールの取り外し後：

- フォークを 3 ～ 4 回圧縮して解放します。



- ホイールボルトとフットレッグのネジを締めます。





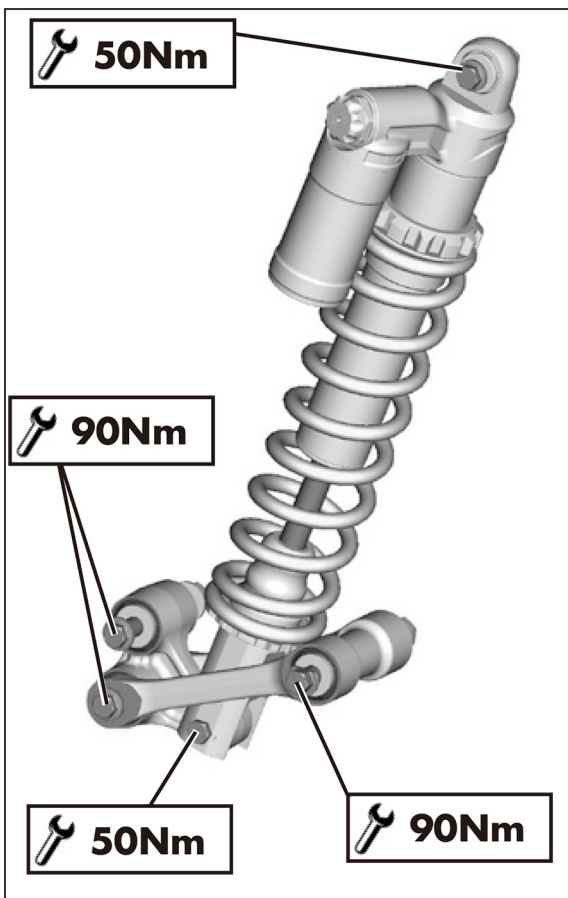
フロントフォーク

メンテナンスについては、認定サービスセンター Betamotor にお問い合わせください。

締め付けトルクを確認するには、図に示すように参照してください。

警告：

ネジの締め付けは、トルクレンチを安定トルクに調整し、安定トルクが得られるまで繰り返し締め付けて行う必要があります。



リアサスペンションのレバレッジ

リアサスペンションの漸進的なてこ作用の最適な動作と持続時間を保証するために、定期的にナットとボルトの締め具合を確認することをお勧めします。

サスペンションのナットとボルトが指定されたトルクであることを確認します。

タイヤ

BETAMOTOR が承認したタイヤのみを装着してください。

不適切なタイヤは、車両のロード ホールディングに悪影響を及ぼす可能性があります。

- 安全のため、損傷したタイヤはすぐに交換してください。
- スリック タイヤは、特に濡れた路面やオフロード走行では、車両のロード ホールディングに悪影響を及ぼします。
- 空気圧が不足すると、タイヤの異常摩耗や過熱の原因となります。
- 前輪と後輪のトレッドのデザインは同じでなければなりません。
- タイヤが冷えているときは、常に空気圧を測定してください。
- タイヤの空気圧を規定の範囲内に保ちます。

チェーン

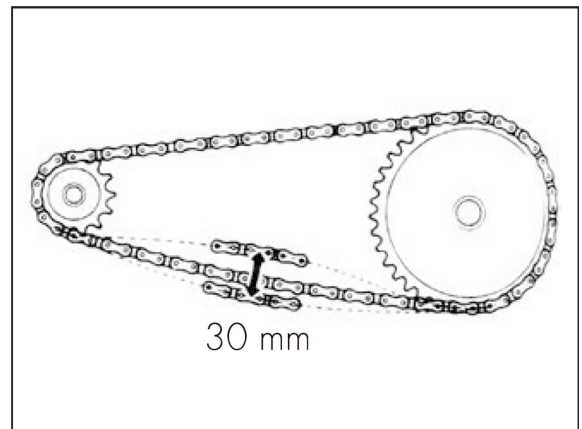
ドライブ チェーンを定期的にチェックして、チェーンの寿命を延ばします。常に注油し、堆積した汚れをきれいに保ちます。

潤滑剤がリアタイヤやブレーキディスクに接触しないように特に注意してください。そうしないと、タイヤのグリップ力やブレーキの効きが大幅に低下し、車両のコントロールが非常に困難になります。

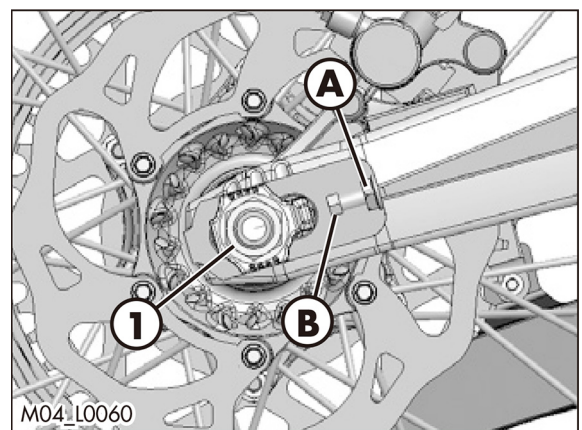
チェーンの点検・調整

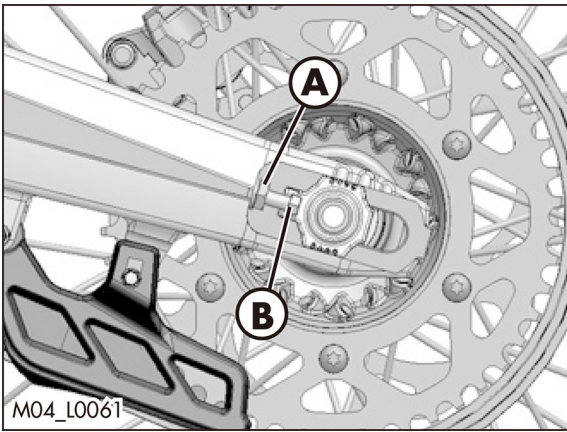
安定性を確保するために、平らな台の上で車両を地面に直立させます。

チェーンのクリアランスは、指定された基準に準拠する必要があります。クリアランスが表示値を超える場合は、チェーンを張ってください。

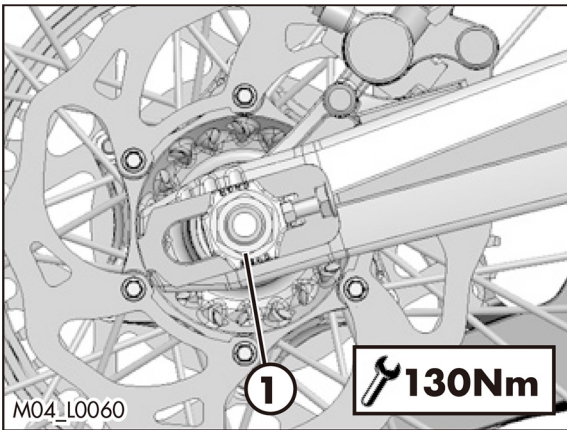


- アスクルナット **1** を緩めます。

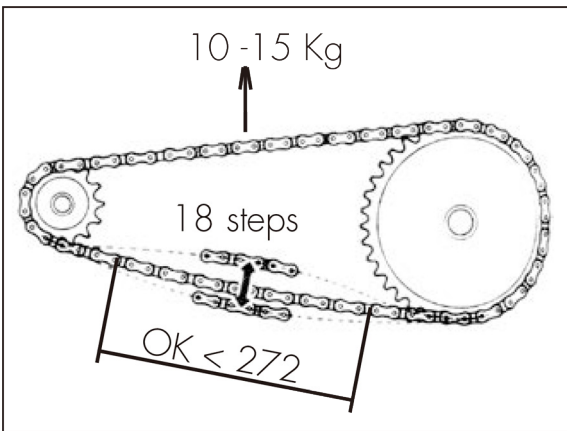




- フォークの両側のカウンターナット **A** を緩めます。
- 希望のチェーン張力が得られるまで、両側の調整ネジ **B** を回します。
- フォークの両側のカウンターナット **A** を締めます。



- アスクルナット **1** を指定されたトルクで締めます。(実際には **110Nm** で十分)



チェーンの摩耗をチェックする

ニュートラルにシフトし、10 ~ 15 kg の力でチェーンの上部ストレッチを引き上げます(図を参照)。チェーンの下部ストレッチで18個のリンクの長さを測定します。長さが272 mm 以上の場合は、チェーンを交換してください。チェーンは常に均一に摩耗するとは限りません。このため、チェーンに沿ったさまざまなポイントで測定を行うことが重要です。

新しいチェーンを取り付けるときは、チェーンリングとスプロケットも必ず交換してください。

古い摩耗したスプロケットに新しいチェーンを取り付けると、摩耗が早くなります。チェーン交換後は、65 ページを参考にチェーンの張りを調整してください。

ヘッドライト

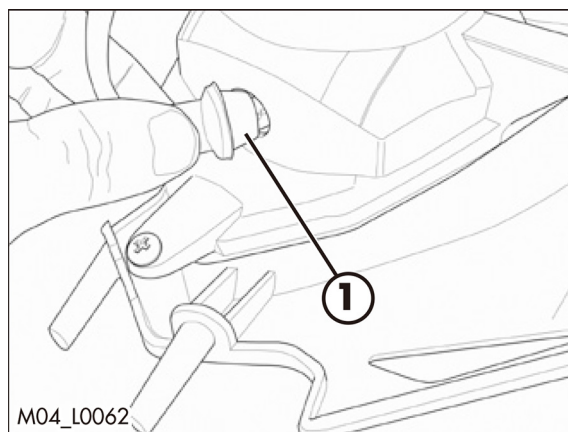
ヘッドライトのガラスは常に清潔に保ってください（71 ページを参照）。

光線の正しい角度を定期的を確認してください。

ヘッドライトバルブの交換

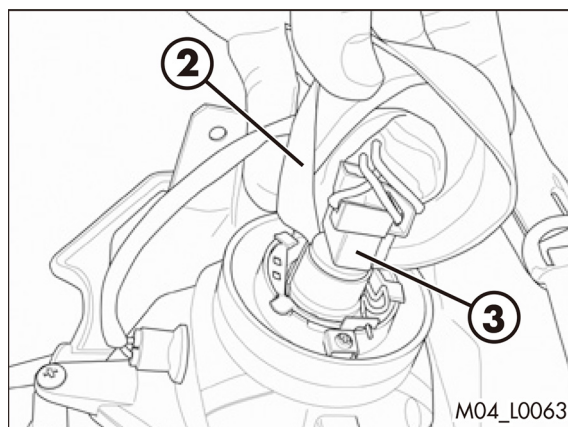
ヘッドランプ マスクを取り外すには（80 ページ）。

デイライト / ポジションライト **1** をランプホルダーからランプを取り外し、新しいランプと交換します（ランプタイプは 16 ページ）。



ハイ / ロービームの交換用：

- ラバーキャップ **2** を取り外します。
- コネクタ **3** を外します。

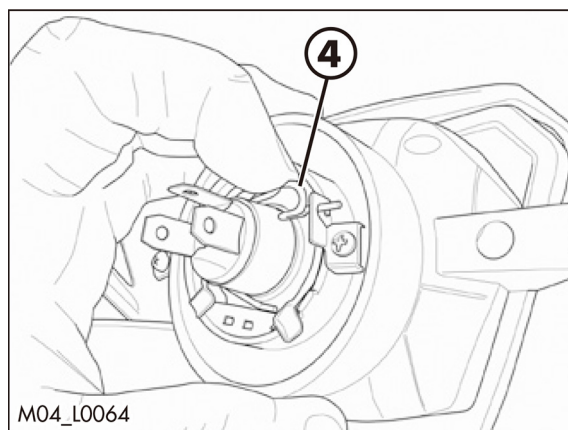


- スプリング **4** を外し、電球を取り外します。

新しいランプに交換してください（ランプデータについては 16 ページを参照してください）。

警告：ランプの効率を損なうことを避けるため、電球に触れないでください。

再組み立ては、上記と逆の手順で行います。

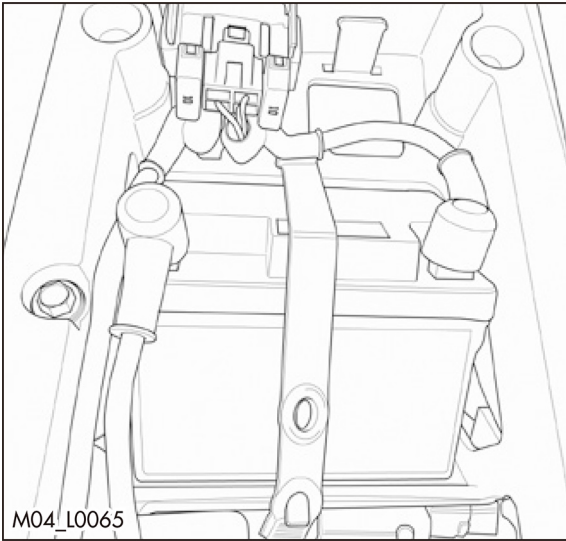


テールライト

テールライトのガラスは常に清潔に保ってください (71 ページを参照)。

LED テールライトは密閉。1 つまたは複数の LED が焼損した場合は、グループ全体を交換する必要があります。

交換するには、正規の Betamotor カスタマー サービスにお問い合わせください。



バッテリー



警告：

バッテリーには次の有害物質が含まれています。

- バッテリーは子供の手の届かないところに保管してください。



- バッテリーに火花や裸火を近づけないでください。



- バッテリーは換気の良い場所でのみ充電し、可燃物から離してください。リチウムイオン電池の充電に適した充電器のみを使用してください。

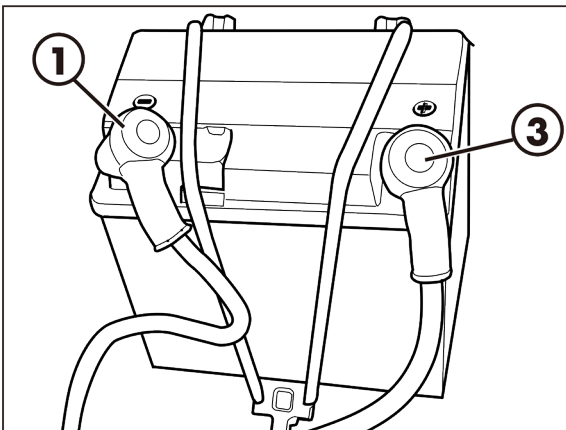


- 完全に消耗したバッテリーを最低 9V より低い電圧で充電しようとししないでください。この場合、該当する規則に従ってバッテリーを廃棄してください。



- 保護を取り外さないでください。

- バッテリーを取り付ける際は、端子の極性に注意してください。



バッテリーの取り外し

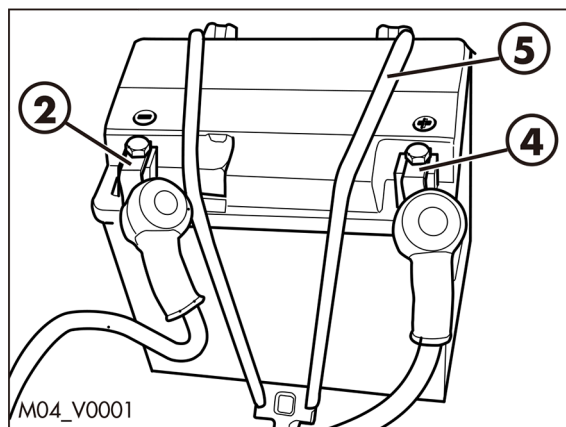
すべての電気ユーザーを遮断し、エンジンを停止します。

シートを取り外します (79 ページ)。

まず、マイナス極のキャップ **1** を取り外し、マイナス端子 **2** (黒) をマイナス極 (-) から外します。

次に、正極 **3** のキャップを取り外し、正極 (+) から正極ラグ **4** (赤) を外します。輪ゴムを外します **5**。

バッテリーを取り外します。



バッテリーの取り付け

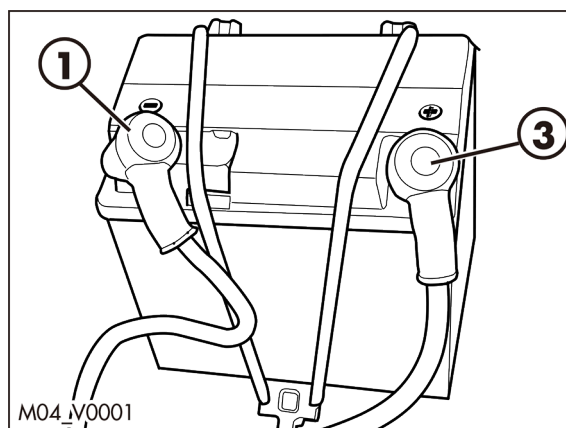
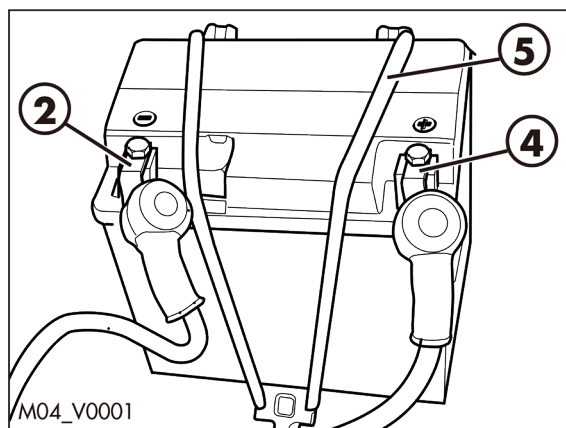
バッテリーを装着する際は、写真のように端子を合わせて挿入してください。

輪ゴムを再び取り付けます **5**。

最初に、保護キャップ **3** を所定の位置に押し、正極ラグ **4** (赤) をバッテリーの正極 (+) に接続します。

次に、関連する保護キャップ **1** を所定の位置に持ってきて、マイナス ラグ **2** (黒) をバッテリーのマイナス極 (-) に固定します。

シートを取り付けます (79 ページ)。



非アクティブ

車両を長期間使用しない場合:

- バッテリーを取り外します (70 ページ)
- 適切な充電器で充電してください (72 ページ)
- バッテリーは乾燥した場所に保管してください。リチウムイオンバッテリーの理想的な保管温度は 20℃です。



バッテリーの充電

マルチメーターを使用するか、バッテリーの「テスト」ボタンを押して、バッテリーの充電を確認します（存在する場合）。

- 電圧 < 9V または「LOW」：
 - バッテリーを充電しないでください
 - バッテリーを新しい同等のものと交換してください
- 電圧 < 12.4V または「MED」：
 - バッテリーを充電

バッテリーを充電するためのガイドライン：



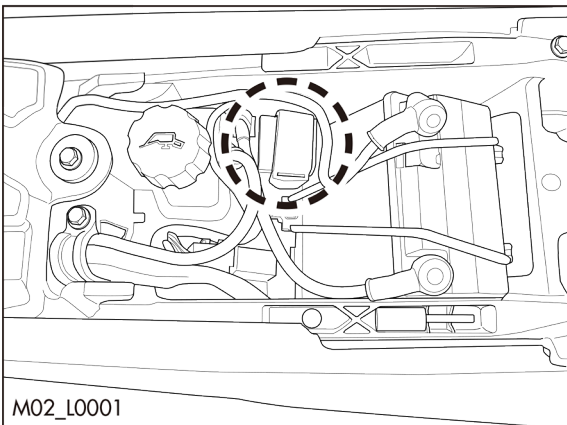
リチウムイオン電池の充電に適した充電器のみを使用してください。

最大充電電圧：14.4V

最大充電電流：3.0A

最大充電時間：12h

車両を 6 か月以上使用しない場合は、専用のバッテリー充電器でバッテリーを定期的に充電してください。リチウムイオンバッテリーの充電に最適な温度：20 °C。



ヒューズ

ヒューズにアクセスするには、シートを取り外します（79 ページ）。

ヒューズが飛んだ場合、車両は始動／停止しません。

車両に付属のキットには予備のヒューズが 3 個付属しています。





飛んだヒューズは、同じタイプの別のヒューズとのみ交換してください。

取り付けた新しいヒューズも切れてしまった場合は、すぐに専門の BETAMOTOR ディーラーに連絡してください。

車両の清掃


一般的な注意事項

 警告：強力な水を噴射する高圧装置で車両を洗淨しないでください。過度の圧力は、電気部品、コネクタ、フレキシブル ケーブル、ベアリングなどに到達し、それらを損傷または破壊する可能性があります。

 警告：オートバイは、海の近く（潮風）や冬に塩分が飛散する道路で使用される冷水で頻繁に洗ってください。塗装されていない部分と、ホイール、フォーク、スイングアームなどの最も露出している部分を、オイルまたはシリコン スプレーの膜で覆います。ゴム部品やブレーキは扱わないでください。

お手入れの際は、直射日光を避けてください。

水が入らないように排気システムを閉じます。

 エアフィルターボックスのカバーやスロットルボディに水が当たらないようにしてください。

洗淨モード



ウォーター ジェットを使用して塗装面にたまった汚れや泥を柔らかくし、水とシャンプーに浸した柔らかいボディワーク スポンジで取り除きます。その後、水でよくすすぎ、空気と布またはスエード レザーで乾かします。

洗剤は水を汚します。常に、洗淨液の収集と浄化が可能な場所で車両を洗淨してください。

洗淨後

適切な換気と乾燥を使用して、フィルター ボックスを空にします。

清掃後、エンジンが動作温度に達するまで短い距離を走行します。

  警告：ウェット ブレーキを使用すると、ブレーキ効果が低下します。を操作する

慎重にブレーキをかけて乾燥させます。

水が蒸発できるように、ハンドルバー コントロール カバーを押し戻します。

バイクが完全に乾いて冷めたら、すべての可動部品に注油します。

すべてのプラスチックおよび塗装されたコンポーネントを刺激の少ない洗剤またはモーターサイクルのお手入れ専用の製品で処理してください。

長期間の非アクティブ

車両を長期間使用しない場合（冬など）は、車両を良好な状態に保つためにいくつかの簡単な操作を実行する必要があります。

- 車両を徹底的に清掃します。
- タイヤの空気圧を約 30% 下げ、可能であればタイヤを地面から持ち上げます。
- ブレーキとゴム部分を除く塗装されていない部分は、オイルまたはスプレー シリコンの膜で覆います。
- バッテリーを取り外し、乾燥した場所に保管してください。15 日ごとにバッテリーを充電してください。
- ダストカバーで車両を保護してください。

長期間使用しなかった場合

- バッテリーを再び取り付けます。
- タイヤの空気圧を元に戻します。
- 重要な機械的機能を持つすべてのねじの締め付けを確認してください。

定期車両整備

警告! Beta ネットにメンテナンス操作を登録します。

警告! 最初の 100 Km の走行後に、次の安全部品の締め付けを確認してください。

- リアスプロケット
- ピニオン
- ブレーキディスク
- ブレーキペダル
- ブレーキキャリパー

		慣らし運転終了 -3時間	クーパー 1~30時間	クーパー 2~60時間	クーパー 3~90時間	クーパー 4~120時間	クーパー 5~150時間	クーパー 6~180時間
エンジン	ギアオイルとクラッチオイル	S	S	S	S	S	S	S
	スパークプラグ	C		S		S		S
	ヘッドスクリュー	T						
	エンジン・クランプ・スクリュー*	C	C	C	C	C	C	C
	キックスタートとギアチェンジレバーのネジ	C	C	C	C	C	C	C
	スパークプラグキャップ	P	P	P	P	P	P	P
	コーティングされたクラッチディスク		C	C	S	C	C	S
	クラッチスプリング長		C	C	C	C	C	C
	クラッチ/ベルハブ				S			S
	ギアボックスベアリング (ドライブシャフト側)			C		C		C
	シリンダー			S		S		S
	ピストンとセグメント				S			S
	コネクティングロッド				S			S
	ドライブシャフトベアリング				C			C
	ギアボックスの表面外観				S			S
	ウォーターポンプオイルシール			C/P			C/P	
	排気弁			C		C		C
	リードバルブ			C		C		C
	サイレンサーの吸音材		S	S	S	S	S	S
	キャブレター	気密性	C	C	C	C	C	C
アイドルリング設定		C	C	C	C	C	C	C
燃料パイプ		C	C	C	C	C	C	C
ブリーザーパイプ		C	C	C	C	C	C	C

キー

C チェック (必要に応じて清掃、調整、注油、交換)

S 交換/更新

R 調整

P 清掃

T 増し締め

集合グループ	項目	慣らし運転終了 -3時間	クーポン 1~30時間	クーポン 2~60時間	クーポン 3~90時間	クーポン 4~120時間	クーポン 5~150時間	クーポン 6~180時間
			C	C	C	C	C	C
集合グループ	クーラントシステムの気密性とクーラントレベル	C	C	C	C	C	C	C
	排気マニホールドの気密性	C	C	C	C	C	C	C
	駆動とスライド	C	C	C	C	C	C	C
	液面クラッチポンプ	C	C	C	C	C	C	C
	エアボックスとエアフィルター	P	P	P	P	P	P	P
	チェーン、プレートホイール、ピニオン	C	C	C	C	C	C	C
	汎用 OBD2 診断テスターでエラーメモリを読み取る	C	C	C	C	C	C	C
	主な接続部にプロ-とグリースを塗布することによる電気システムの操作	C	C	C	C	C	C	C
	12V バッテリーの点検と充電	C	C	C	C	C	C	C
ブレーキ	液面、パッド厚	C	C	C	C	C	C	C
	ディスクの厚さ	C	C	C	C	C	C	C
	パイプの気密性	C	C	C	C	C	C	C
	アイドルトラベルレバーとドライブのスライド	C	C	C	C	C	C	C
サイクリング	シャーシ	C	C	C	C	C	C	C
	スイングアーム	C	C	C	C	C	C	C
	可動部品	C	C	C	C	C	C	C
	ショックアブソーバーと伸縮フォーク	C	C	C	C	C	C	C
	リアサスペンションリンケージ	C	C	C	C	C	C	C
	フォークカバー	C	C	C	C	C	C	C
	燃料ライン	C	C	C	C	C	C	C
	ステアリングのベアリング	C	C	C	C	C	C	C
	ボルト	C	C	C	C	C	C	C
ホイール	ホイールスポークとリムの同軸性	C	C	C	C	C	C	C
	タイヤ (摩耗と圧力)	C	C	C	C	C	C	C
	ベアリングクリアランス	C	C	C	C	C	C	C

キー

C チェック (必要に応じて清掃、調整、注油、交換)

S 交換/更新

R 調整

P 清掃

T 増し締め

(*) アタッチメント	ねじ	ネジロック	トルク [Nm]
エンジンからシャーシ	特殊ネジ M10		45
ヘッドをシャーシに取り付けるブラケット	M8x16	中強度	35
ヘッドをエンジンに取り付けるためのブラケット	M8x60		35

警告：

サービス要件については、ベータモーターの認定サービスネットワークにお問い合わせください。

締付トルク概要

以下は、調整またはメンテナンスの対象となるすべての部品の締め付けトルクの概要です。

フロント周り		
	締め付けトルク [Nm]	ネジロック
ホイールピン	50	
フォークフット - ホイールピン	20	
Cavallotto parastelo sinistro	1.5	
ステアリングヘッドベース - フォークレグ	12*	
ステアリングヘッド - フォークレグ	17*	
ステアリングヘッドのステムピン	20	
下部ハンドルバー U ボルト - ステアリングヘッド	40	中強度
上部ハンドルバー U ボルト - 下部ハンドルバー U ボルト	25	
ステアリングヘッドクリアランス調整ナット	33	

リア周り		
	締め付けトルク [Nm]	ネジロック
ホイールピン	130	
リアショックアブソーバー - フレーム	70	
リアショックアブソーバー - ロッカーアーム	70	
コネクティングロッド - フレーム	90	
コネクティングロッド - ロッカーアーム	90	
ロッカーアーム - スイングアーム	90	

エンジン		
	締め付けトルク [Nm]	ネジロック
ギアボックスオイルドレンプラグ	15	

エンジン - フレーム		
	締め付けトルク [Nm]	ネジロック
ピンモーター - フレーム	45	
ヘッドを取り付けるためのブラケット - フレーム (前固定)	35	中強度
ヘッドを取り付けるためのブラケット - フレーム (後方固定)	35	中強度
ヘッドを取り付けるブラケット - モーター	35	



警告：

ネジの締め付けは、トルクレンチを安定トルクに調整して、安定トルクが得られるまで繰り返し締め付けて実行する必要があります。

5

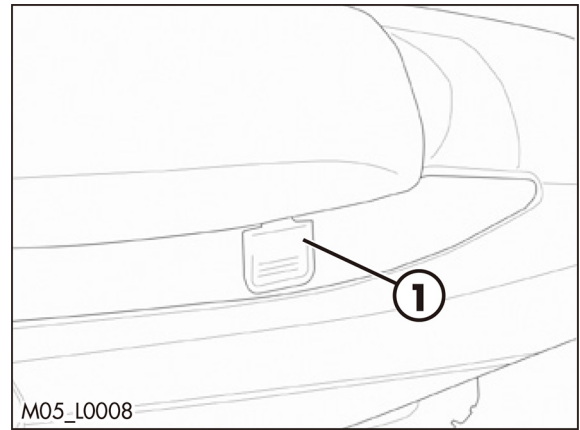
第 5 章 交換品／トラブルシューティング

コンテンツ

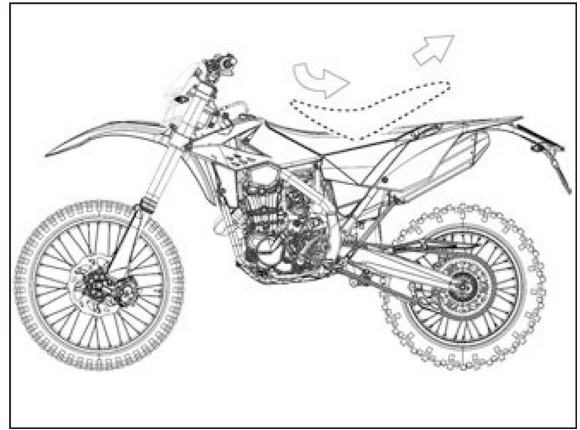
シートの取り外しと取り付け.....	79
エアフィルターカバーパネルの取り外しと取り付け.....	80
完全なタンクの取り外しと取り付け.....	81
ヘッドランプ マスクの取り外しと取り付け	82
トラブルシューティング.....	83

シートの取り外しと取り付け

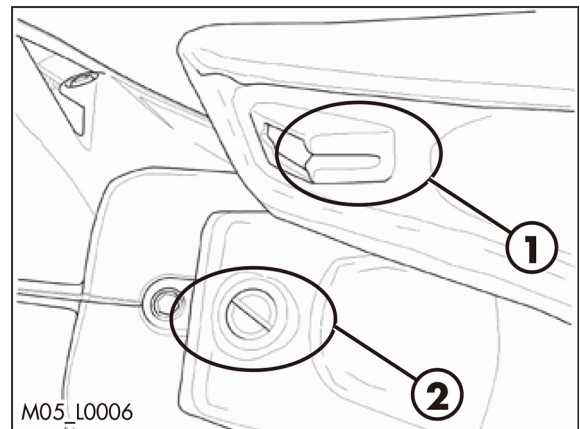
ボタン 1 を押します。



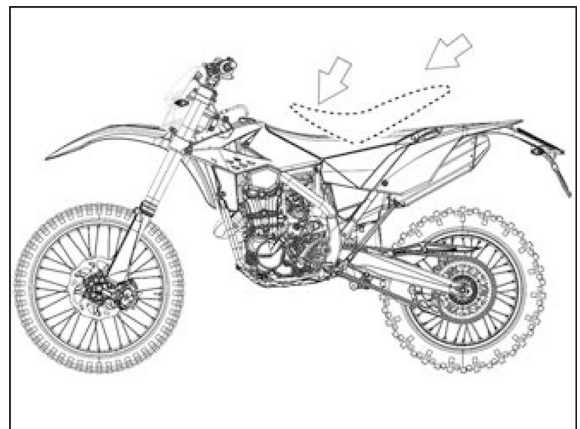
シートをオートバイの後方に向かって取り外します。

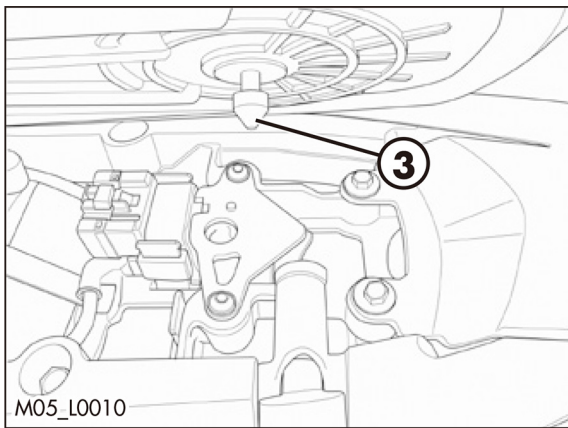


シートを組み付けるには、シートのキャビティ 1 をスロット 2 に挿入します。



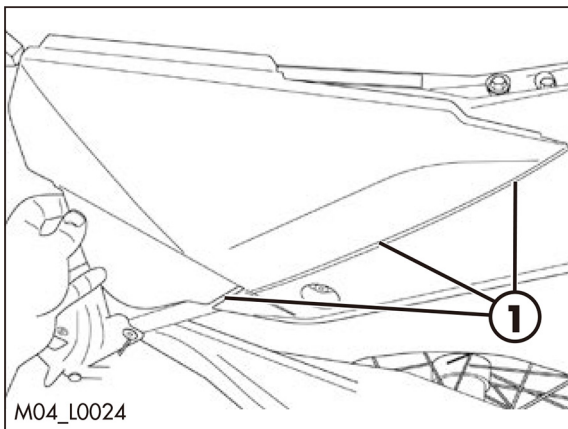
シートの中央を押し下げると同時に、バヨネットジョイントがシートにかみ合うまで前方に押します。





警告

バヨネットジョイント 3 がボタン ロック にしっかりと挿入されていることを確認します。




エアフィルターカバーパネルの取り外しと取り付け

- シートを取り外します (79 ページ)。
- 正面側のサイドパネルをつかみ、引き出します。
- 再度取り付けるには、タブ **1** をスロットに挿入します。
- サイドパネルを車両側にスライドさせます。



完全なタンクの取り外しと取り付け


燃料タンクのベントパイプを外します。

燃料コックをOFFの位置(19ページ)に回し、
燃料ホースを燃料コックから外します。

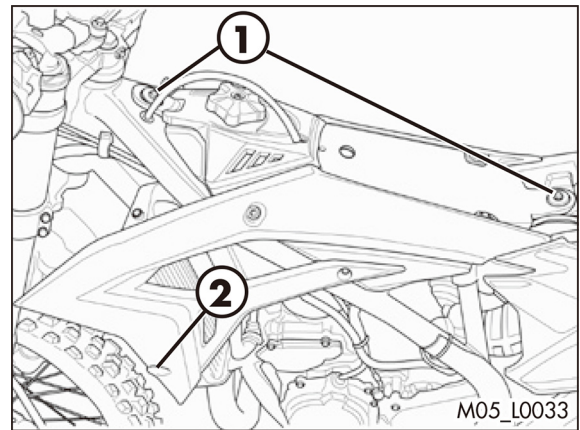
 警告：
エンジンが冷えた状態で、換気の良い
場所で行動してください。

 警告：
火災の危険。燃料は可燃性が高い。

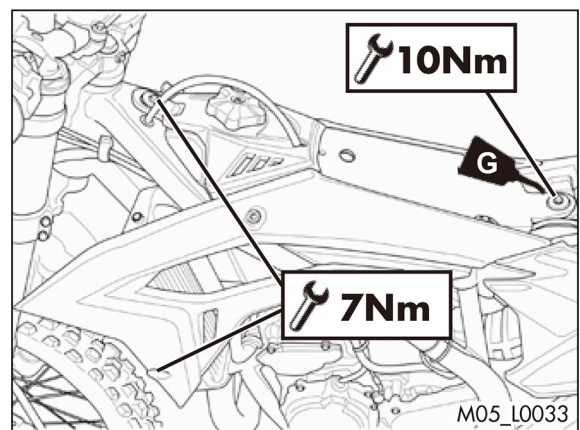
  給油時は必ずエンジンを停止
し、火気や火のついたタバコを
近づけないでください。

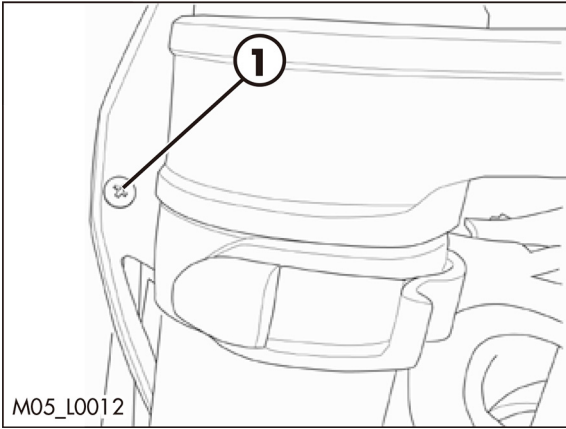
 こぼれた燃料はすぐに拭き取ってくだ
さい。

- シートを取り外します (79 ページ)。
- タンクをフレームに固定しているねじ **1**
と、フェアリングをラジエーターに固定し
ているねじ **2** (両側に 1 本) を取り外し
ます。
- タンクをサイドパネルごと持ち上げます。



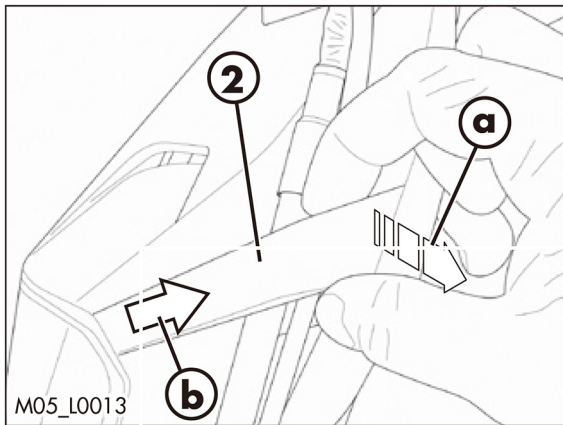
- 再組み立ては、前述の分解手順とは逆の手
順で行います。
- タンクのネジを所定のトルクで締めます。



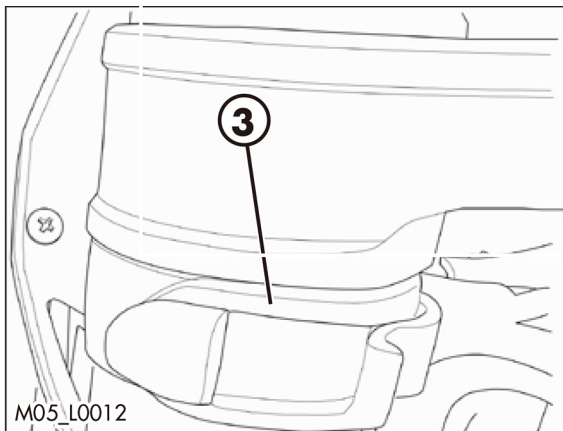


ヘッドランプ マスクの 取り外しと取り付け

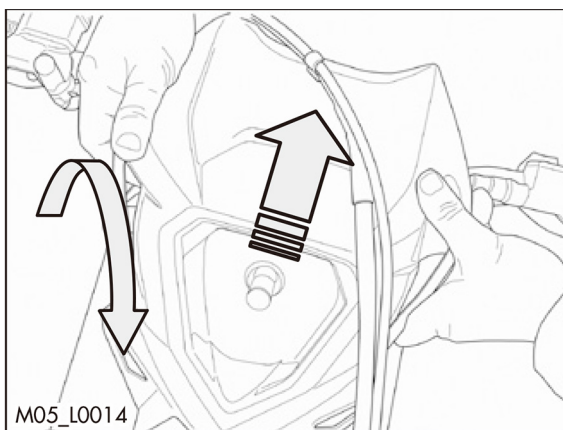
ネジ **1** を取り外します。



後部を手前に引いてジャンパ **2** を取り外し、後部にスライドさせます。



エラスティック **3** (両側に 1 つずつ) を外します。




マスクを上引っ張り、上から前方に回転させます。

マスクを車両に取り付けているすべての電気コネクタを外します。

マスクを取り外します。

再組み立ては、前述の分解手順とは逆の手順で行います。

トラブルシューティング

問題	原因	救済策
エンジンが始動しない	- 燃料システムが詰まっている (燃料ライン、燃料タンク、燃料コック)	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- エアフィルターが汚れている	エアフィルターを確認してください
	- スパークプラグに電流が供給されていない	スパークプラグを清掃または交換します。問題が解決しない場合は、公認の BETAMOTOR カスタマーサービスにお問い合わせください
	- プラグがかぶった	セルスイッチを 5 秒間 2 回操作します。車両が始動しない場合は、スパークプラグを取り外して乾かします。
	- 電極間の距離が大きすぎる	電極間の距離を確認してください
	- 点火コネクタまたはコイルの緩みまたは酸化	電気接点用のスプレー製品で清掃し、締めます
	- キャブレター内の水の存在	キャブレタータンクを空にする
エンジンは起動しますが、「MIL」の警告灯が点灯します 	- エンジン管理システムの障害	燃料タンクを空にし、1.6%の混合物で燃料を補給します。BETAMOTORの認定カスタマーサービスにお問い合わせください
エンジンの失火	- スパークギャップが誤って調整された	スパークギャップを回復する
	- スパークプラグの汚れ	スパークプラグを清掃または交換する
アイドリングしない	- アイドリングエアジェットが詰まっている	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- 調整ネジの調整が不十分	調整する
	- スパークプラグの不良	スパークプラグを交換する
	- 点火システムの故障	コイルと点火プラグギャップを確認してください
エンジンがオーバーヒートしてパワーが出ない	- サイレンサーが部分的に詰まっている	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- リードバルブの破損	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- イグニッションシステムの故障	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
過剰な煙	- ミキサーシステム障害の可能性	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
フロントブレーキングが悪い	- ブレーキパッドが摩耗	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- 油圧回路内の空気または湿度	57 ページで説明されている手順に従います
リアブレーキングが悪い	- ブレーキパッドが摩耗	BETAMOTOR の認定カスタマーサービスにお問い合わせください
	- 油圧回路内の空気または湿度	60 ページで説明されている手順に従います

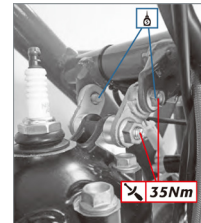
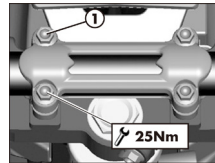
索引

アイドリングの調整	38
安全運転	7
エアフィルター	51
エアフィルターカバーパネルの取り外しと取り付け	80
エンジンオイル	47
エンジンの始動	35
エンジン停止	35
各部名称	10
記号	6
キャブレター	54
給油	34
クーラント	48
クラッチ	38
クラッチコントロール	62
混合オイルの給油	35
シートの取り外しと取り付け	79
締付トルク概要	77
主要な部分	19
仕様	11
使用前後のチェック	33
ショックアブソーバー	44
車両識別データ	8
車両の清掃	73
推奨される潤滑剤と液体	17
ステアリングの遊びの確認と調整	64
スロットルワイヤーの調整	38
スパークプラグ	53
タイヤ	67

チェーン	67
長時間の非活動	71
ツールキット	9
定期車両整備	75
テールライト	70
デジタルメーターの操作手順	24
電気系統	15
電球	17
トラブルシューティング	83
取扱説明書	6
慣らし運転	33
排気弁制御調整	42
バッテリー	70
ハンドル調整	42
フロントフォーク	66
フロントフォークの調整	44
フロントホイール	65
フロントブレーキ	56
ヒューズ	17
ヒューズ	72
ブレーキ	37
ヘッドライト	69
ヘッドライトバルブの交換	69
ヘッドランプマスクの取り外しと取り付け	82
リアサスペンションのリバレッジ	66
リアブレーキ	59

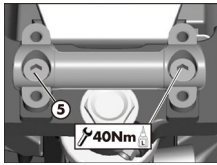


ハンドルパークランプボルト
25Nm



エンジンハンガーボルト
35Nm シリコングリス

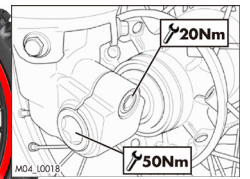
ハンドルパークランプマウントボルト
40Nm 中強度ネジロック



R ディスク摩耗限界
≥2mm

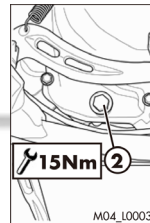
アスクルナット
110Nm

フットレグネジ
20Nm

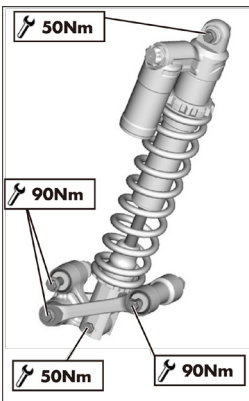


ドレンボルト
15Nm

ミッションオイル量
~22年 0.85L
23年~ 0.8L

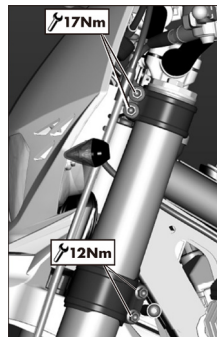


ホイールボルト
50Nm



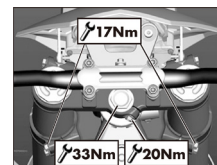
ピボットシャフトナット
90Nm

ブラケットアッパーボルト
17Nm

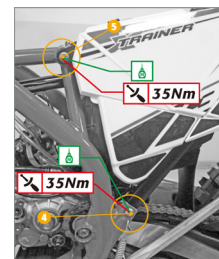


ブラケットローアーボルト
12Nm

ステムクランプボルト
20Nm

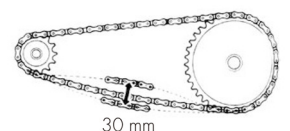


サブフレームボルト
35Nm 中強度ネジロック



F ディスク摩耗限界
≥2mm

チェーンサイズ 520
~16年 112L
17年~ 114L



M6 ボルト
10Nm

